

# 令和4年度 教育委員会の事務 に関する点検評価報告書



令和5年11月  
海津市教育委員会

## 目 次

I はじめに	・・・・・・・・ 1
(1) 趣旨	
(2) 点検・評価の対象	
(3) 点検・評価の方法と評価区分（基本施策ごとの評価について）	
(4) 点検・評価結果の構成	
II 教育委員会の会議及び教育委員の活動状況	・・・・・・・・ 4
(1) 会議の開催	
(2) その他の活動状況	
①教育委員の研修状況	
②教育委員の学校訪問等	
③総合教育会議への出席	
④教育委員の関係行事等への出席	
⑤広報活動	
III 教育委員会の施策 点検・評価	・・・・・・・・ 9
(1) 教育振興基本計画の基本理念	
(2) 基本的観点	
(3) 計画の体系	
(4) 内部進捗評価一覧表	
(5) 施策の総合点検評価	
IV 教育委員会の施策 外部評価	・・・・・・・・ 60
(1) 外部評価一覧表	
(2) 外部評価（学識経験による意見）	

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抄)」

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

# I はじめに

## (1) 趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定により、平成20年4月1日から、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、市民に公表することが義務付けられています。

この法の趣旨に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民に対する説明責任を果たすことを目的として、海津市教育委員会の事務に関する点検及び評価を実施するものです。

## (2) 点検・評価の対象

平成31年3月に策定した「第2次海津市教育振興基本計画」における、教育委員会の所管となる6つの基本目標のもと20の施策を点検と評価の対象としています。

## (3) 点検・評価の方法と評価区分（基本施策ごとの評価について）

点検・評価は、教育振興基本計画に基づき長期的な視野に立って教育行政を推進していくために、P（Plan：計画）、D（Do：実行）、C（Check：点検・評価）、A（Action：改善）のマネジメントサイクルによる進行管理により毎年度実施し、評価結果を十分に活用して次年度以降の具体的な事業を検討することが必要となります。そのため、令和4年度に実施した事業の取り組み状況を明らかにするとともに、今後の課題と対応の方向性を示すこととしています。

また、点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する外部の方から外部検証評価と意見、助言をいただきます。

## (4) 点検・評価結果の構成

### ア. 基本目標・施策・施策方針

第2次海津市教育振興基本計画に掲げる基本目標です。

### イ. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

基本目標・施策に関する進捗評価を実施しています。また、進捗評価の理由及び今後の方向性についても記載しています。

進捗の評価区分 (4段階)	S・・・・・・・・予定以上に進んでいる。 A・・・・・・・・予定どおり進んでいる。 B・・・・・・・・少し遅れている。 C・・・・・・・・大幅に遅れている。
------------------	---

ウ. 参考とする指標

第2次海津市総合計画

エ. 基本施策に関する評価シート

20の施策に掲げたそれぞれの「基本施策」をシートに取りまとめています。

①基本施策〔取組目標 年度計画〕

各施策に掲げられた取り組むべき目標とその年度の計画を示しています。

②基本施策〔実績成果 課題〕

年度計画の実施に伴いその内容と成果及び課題等を示しています。

③内部評価

基本施策に伴う実績成果・課題を踏まえ4段階評価をしています。

◎・・・・・・・・十分達成

○・・・・・・・・おおむね達成

△・・・・・・・・やや不十分

×・・・・・・・・達成できず

# 記載事項説明書

第2次海津市教育振興基本計画における「基本目標」と「施策の方針」と「基本施策」

施策の総合点検評価		担当課	こども未来課	
基本目標	1 子ども・子育て支援の充実		外部検証評価	外部評価
施策	2 子育て家庭への支援の充実		評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討
施策方針	すべての家庭が安心して子育てでき、育てる喜びを感じられるように子育て支援サービスを充実します。			
1. 施策の進捗状況		進捗の評価 S A B C	方向性	
進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など	
S	予定以上に進んでいる		進捗評価の理由および施策の方向性などを記載	
A	予定どおり進んでいる			
B	少し遅れている			
C	大幅に遅れている			
参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)				
成果指標		策定時(H27)	実績値(R4)	目標値(R4)
地域子育て支援拠点 延べ利用者数		17,838人		15,000人
留守家庭児童教室利用者数		360人		360人
基本施策に関する評価シート(★は令和2年度の重点的な取り組み)				内部評価(所属課) ◎ ○ △ ×
多様な子育て支援サービスの充実				
取組目標	子育て支援ニーズを把握し、計画的に子育て支援サービスを支援できる体制を整備します。また、共働き世帯が働きながら安心して子どもを預けられるように低年齢児保育事業、延長保育事業、一時預かり事業、留守家庭児童教室事業などの多様な子育て支援サービスの充実に努めます。			
年度計画	Plan「P」(計画)			内部評価 check「C」(評価)
実績成果	Do「D」(実行)			
課題	Action「A」(改善)			◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

重点的な取り組み「★」

行政評価の実績値を記載

内部評価(所属課)  
◎ ○ △ ×

check「C」(評価)

## Ⅱ 教育委員会の会議及び 教育委員の活動

## Ⅱ 教育委員会の会議及び活動状況

令和4年度の教育委員会の活動について、「教育委員会会議」と「学校訪問」などの項目に分け、教育委員会による点検を行いました。

### (1) 会議の開催

教育委員会会議は、原則として毎月1回の予定で開催することとしています。

令和4年度は、16回開催され、付議された議案は合計107件でありました。

以下、令和4年度の開催状況の詳細を報告します。

#### ○令和4年度教育委員会会議の開催状況

回数	期日	案件
第1回	令和4年4月4日(月)	3件
第2回	令和4年4月28日(木)	17件
第3回	令和4年5月16日(月)	6件
第4回	令和4年6月14日(火)	1件
第5回	令和4年6月30日(木)	7件
第6回	令和4年7月19日(火)	2件
第7回	令和4年8月29日(月)	7件
第8回	令和4年9月20日(火)	5件
第9回	令和4年10月21日(金)	3件
第10回	令和4年11月22日(火)	8件
第11回	令和4年12月19日(月)	8件
第12回	令和5年1月24日(火)	9件
第13回	令和5年1月27日(金)	1件
第14回	令和5年2月14日(火)	11件
第15回	令和5年3月7日(火)	5件
第16回	令和5年3月24日(金)	14件
合計		107件

### ア 議案について

教育委員会の権限に属する事務の執行は、「海津市教育委員会教育長事務委任規則<sup>※1</sup>」第2に掲げるものを除き、その権限を教育長に委任すると定められています。一方で、同規則第3条は委任された事務についても重要かつ異例の事態が生じたときは教育委員会の決定に委ねるとしており、実際には、重要事項の多くは教育委員会の会議の場で決定されています。令和4年度に付議された議案は、全て会議規則に従い適切に処理されました。

また、議事の終了後には、事務局各課から事業の実績・進捗状況及び計画等について報告又は説明を行い、今日的な教育課題への対応等、共通の認識を持ちつつ理解を深めることと致しました。

※1 海津市教育委員会教育長事務委任規則 (抜粋)

(事務委任)

第2条 教育委員会は、次に掲げる事項を除き、その権限に属する事務を教育長に委任する。

- (1) 学校教育又は社会教育に関する一般方針を定めること。
- (2) 学校、図書館、博物館、公民館その他の教育機関の設置及び廃止を決定すること。
- (3) 1件1,000万円を超える教育財産の取得を市長に申し出ること。
- (4) 県費負担教職員の懲戒及び任免その他の進退について内申すること。
- (5) 県費負担教職員のサービスの監督の一般方針を定めること。
- (6) 前2号に定めるもののほか、人事の一般方針を定め、及び懲戒を行うこと。
- (7) 県費負担教職員以外の学校、図書館、博物館、公民館その他の教育機関及び事務局の職員(臨時的任用職員及び非常勤の職員を除く。)の任免その他の人事に関すること。
- (8) 県費負担教職員以外の学校、図書館、博物館、公民館その他の教育機関及び事務局の職員(臨時的任用職員及び非常勤の職員を除く。)の懲戒に関すること。
- (9) 1件1,000万円以上の工事の計画を策定すること。
- (10) 教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃を行うこと。
- (11) 教育予算その他議会の議決を経るべき議案について意見を市長に申し出ること。
- (12) 法律若しくは、これに基づく政令又は条例に基づき置かれている附属機関の委員又は委員を委嘱すること。
- (13) 校長、教員その他の教育関係職員の研修の一般方針を定めること。
- (14) 学齢児童生徒の就学すべき学校の区域を設定し、又はこれを変更すること。
- (15) 公文書の公開の決定に関すること。
- (16) 個人情報の開示、請求及び削除の決定に関すること。
- (17) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第26条の規定による点検及び評価に関すること。

イ 議事について

簡易な事務手続き等の案件を除き、条例や規則の改正あるいは、事業計画の承認等、重要事項の審議は、問題意識を共有して事業効果の高い結果が得られるよう、事務局に詳細な説明を求め、活発な議論が展開されました。

また、事務局は、資料の提示や詳細な説明等、より多くの情報提供に努め、メリハリのある会議の運営に努めました。

(2) その他の活動状況

教育委員は、教育委員会の会議以外にも研修や学校訪問等の実施あるいは、関連する教育団体との懇談などに参加しました。

①教育委員の研修状況

事業名	期 日	場 所	内 容
視察研修	令和5年1月27日(金)	岐阜県博物館 国宝犬山城	社会教育分野等の施設を視察

②教育委員の学校等訪問

教育委員会会議の開催に合わせて、令和4年度においては、市内の小・中学校等を訪問し、子どもたちの学びの様子や学校の運営方針、施設、教育環境、授業等、様々な視点で、その学校の良さや、抱えている課題などを把握することに努めました。

	期 日	訪問先等
6月	1日(水)	城南中学校
	2日(木)	西江小学校
	9日(木)	石津認定こども園
	14日(火)	高須認定こども園
	16日(木)	高須小学校
	17日(金)	今尾認定こども園
	21日(火)	吉里小学校
	28日(火)	東江小学校
	30日(木)	城山小学校
9月	13日(火)	今尾小学校
	16日(金)	海西小学校
	21日(水)	平田中学校
	27日(火)	石津小学校
11月	16日(水)	日新中学校研究発表会
	18日(金)	大江小学校研究発表会
	28日(月)	下多度小学校研究発表会

③総合教育会議への出席

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正に伴い、平成27年度から「海津市総合教育会議」を設置しました。会議は、市長と教育委員会で構成され、互いが十分な意思疎通を図り教育課題を共有して、より一層、民意を反映した教育行政を推進するために市長が招集するもので、以下のとおり開催され出席しました。

回数	期日	場所	案件
第1回	令和4年4月28日(木)	海津市役所 東館 4-2会議室	1件
第2回	令和4年7月19日(火)	海津市役所 東館 4-2会議室	2件
第3回	令和5年2月14日(火)	海津市役所 東館 4-2会議室	2件

④教育委員の関係行事等への出席

期日	主要行事等	場所
4月 7日(木)	小中学校「入学式」	各小中学校
3月	7日(火)	中学校「卒業式」
	23日(木)	小学校「卒業式」

⑤広報活動

定期的に開催する教育委員会会議をはじめとして、その主な活動は、海津市ホームページで公開しました。

今後もより一層、市民の皆様のご理解とご協力を得るため、広報紙やホームページ等を工夫する必要があると考えています。

# Ⅲ 教育委員会の施策 点検・評価

## (1) 教育振興基本計画の基本理念

本市は、平成29年(2017年)3月、まちづくりの基本的な方向を示す「第2次総合計画」を策定しました。本市の優れた自然環境の中で、安心して子育てができ、働き、生活ができるまちとなるように、目指すべき将来像として「水と緑と人がきらめく 輪でつながるまち 海津」を掲げております。その中で、教育施策の柱として「個性と創造性を培うところ豊かなまちづくり」を進めています。

一方、教育の一層の振興を図っていくためには、今後の本市の教育を見据えた基本的な方向を明確にするとともに、その実現に向けて、どのような教育施策を、どのように進めていくかを明らかにしていく必要があります。

そのため、海津市教育振興基本計画の基本理念を引き続き「いのちをつなぐ教育」として継承し、市民が心豊かな一人一人がともに生きる喜びを感じる教育を目指しています。

### 【基本理念】

## 「いのち」をつなぐ教育

心豊かな一人一人がともに生きる喜びを感じる教育

## (2) 基本的観点

### 世代をつなぐ 『世代がつながり 生き方を育む』

- ①「生きる力」の基礎を育み、自立できる力をつける。
- ②「生きる力」を育み、豊かな人間性を身につける。
- ③生きがいと共生を地域の中での学習活動を通して目指す。
- ④多様なニーズを要する子どもたちに学習支援の充実を目指す。

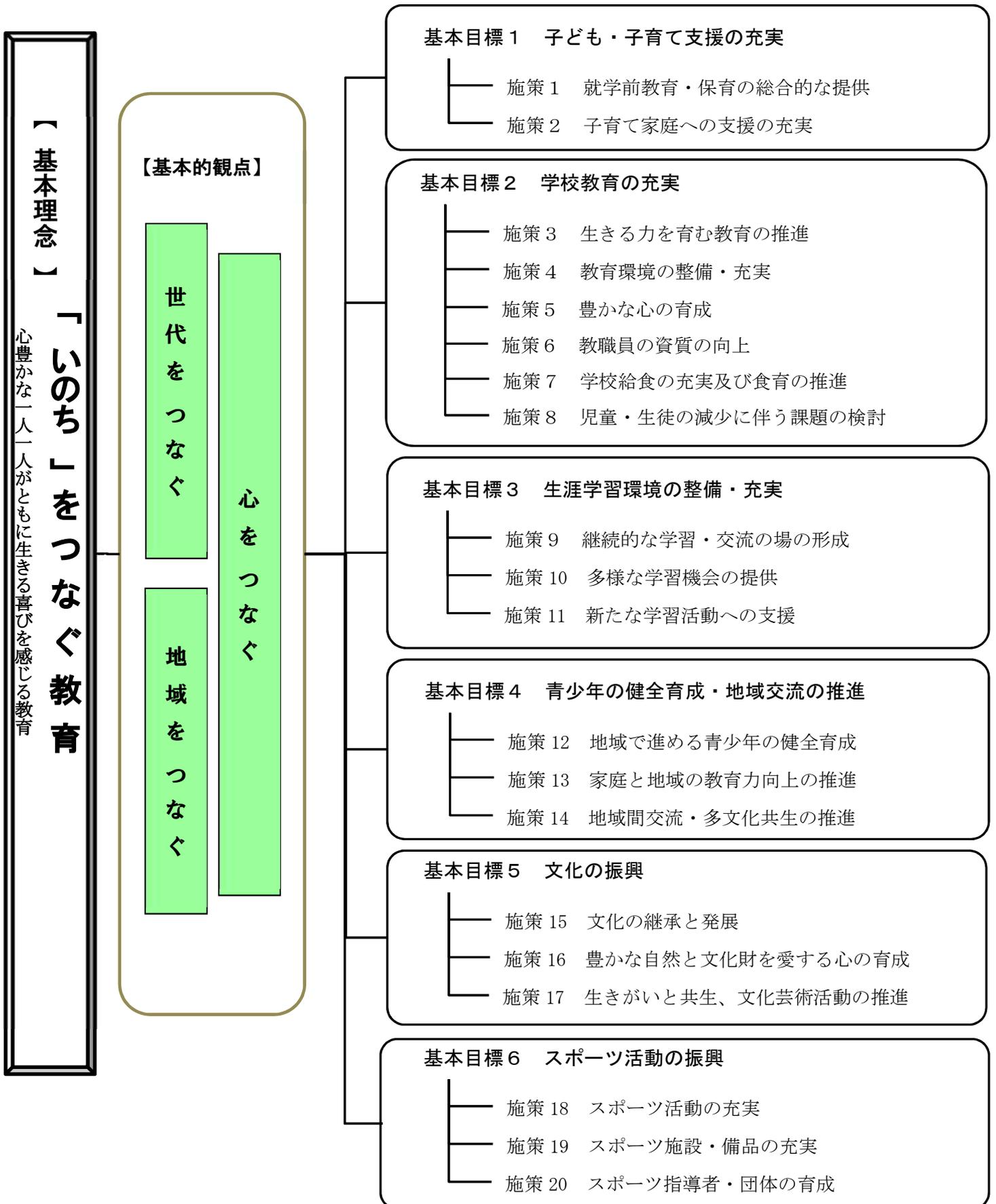
### 地域をつなぐ 『地域がつながり 生きる喜びを感じる』

- ①家庭の教育力を高めるための学習機会や情報提供を充実させる。
- ②地域がつながり、地域ぐるみで良好な環境づくりを進め、青少年の健全育成を進める。
- ③地域に根ざし、市民のつながりを生み出すスポーツ・レクリエーション活動の活性化を図る。
- ④歴史上や姉妹都市等、関わりのある市町とのつながり、交流を行い、地域づくりを進める。

### 心をつなぐ 『心がつながり 愛情と思いやりに溢れる人を創る』

- ①心のふれあいを大切に、温かい人間関係をつくる。
- ②海津の文化を愛し、継承・発展を進め、郷土を愛する心を育む。

(3) 計画の体系



(4) 内部進捗評価一覧表 (★は令和4年度の重点的な取り組み)

第2次海津市教育振興基本計画 「基本目標」		
【基本目標の施策】	担当課	
基本施策	進捗評価	内部評価
<b>「基本目標1」 子ども・子育て支援の充実</b>		
<b>【施策1】 就学前教育・保育の総合的な提供</b>	こども未来課	
★① 認定こども園における幼児教育の推進	A	○
② 小学校との連携		○
③ 配慮が必要な子どもへの支援		○
★④ 就学前教育・保育施設の整備		◎
⑤ 保育教諭の資質向上		○
<b>【施策2】 子育て家庭への支援の充実</b>	こども未来課	
① 多様な子育て支援サービスの充実	A	○
★② 相談体制の充実		○
③ 情報提供の充実		○
<b>「基本目標2」 学校教育の充実</b>		
<b>【施策3】 生きる力を育む教育の推進</b>	学校教育課	
① 「軸」を明確にした学校経営の推進	A	○
② 確かな学力を身につけることで「生きる力」を育む指導の充実		○
★③ 基礎的な知識・技能を着実に身につける指導や取組の充実		○
④ 思考力・判断力・表現力などを育成する指導や取組の充実		○
⑤ 学びに向かう力を高める取組の充実		○
★⑥ 多様なニーズを要する子どもに対応した教育機会の充実		○
⑦ 外国語活動の充実		○
⑧ キャリア教育の推進		○
⑨ 郷土学習の推進		○
<b>【施策4】 教育環境の整備・充実</b>	教育総務課・学校教育課	
★① 学校施設の老朽化対策及び長寿命化対策の推進	A	○
★② 教育環境における情報機器設備の充実		◎
③ 安全な通学路の確保		○
<b>【施策5】 豊かな心の育成</b>	学校教育課	
① 道徳教育の充実	A	○
② 多様な体験活動の推進		○
★③ 人権同和教育の推進		○
<b>【施策6】 教職員の資質の向上</b>	学校教育課	
① 「海津市教育のスタンダード」の活用	A	○
★② 教職員研修の充実		○
③ 特別支援教育に関わる教職員の研修		○
④ 研究授業や公開授業、交流授業などの促進		○
⑤ 子どもと向き合う時間の確保		○
<b>【施策7】 学校給食の充実及び食育の推進</b>	教育総務課(給食センター)	
★① 地域全体で取組む食育の推進	A	◎
② 学校給食の充実		○
③ 学校給食の衛生管理と事故防止の徹底		○
④ 学校給食センターの効率的な運用・整備		○
⑤ 学校における事務負担の軽減		○
⑥ 給食の提供における緊急対応		○
<b>【施策8】 児童・生徒の減少に伴う課題の検討</b>	教育総務課	
★① 海津市小中学校の適正規模等に関する検討委員会の設置と協議	A	◎
<b>「基本目標3」 生涯学習環境の整備・充実</b>		
<b>【施策9】 継続的な学習・交流の場の形成</b>	社会教育課	
★① 生涯学習ニーズの把握	A	○
② 学習情報の収集・整備		○
③ 社会教育施設などの整備とネットワーク化		○

(4) 内部進捗評価一覧表 (★は令和4年度の重点的な取り組み)

第2次海津市教育振興基本計画 「基本目標」		担当課	
【基本目標の施策】		進捗評価	内部評価
基本施策			
「基本目標3」 生涯学習環境の整備・充実			
【施策10】 多様な学習機会の提供		社会教育課	
① 生涯学習活動と指導者の育成		A	○
★② 生涯学習の意識啓発			○
★③ 図書館や歴史民俗資料館などの学習機関の機能充実			○
【施策11】 新たな学習活動への支援		社会教育課	
① 学習活動を支援する人材の活用		A	○
② 高齢者のもつ技能の伝承			○
★③ 学習機会の充実			○
「基本目標4」 青少年の健全育成・地域交流の推進			
【施策12】 地域で進める青少年の健全育成		社会教育課	
① 「こども健全育成指針」の推進		A	○
★② 子どもの生活習慣の確立に向けた支援			○
③ 組織的な活動の充実			○
④ 青少年教育の充実と地域社会の教育力の向上			○
【施策13】 家庭と地域の教育力向上の推進		社会教育課	
① 「あたりまえ」のことができる家庭教育支援の推進		A	○
★② 子育て学習の提供と家庭教育相談体制の充実			◎
③ 地域と連携した活動の充実			○
【施策14】 地域間交流・多文化共生の推進		社会教育課	
★① 交流教育の充実		A	○
② 多文化共生の推進			○
「基本目標5」 文化の振興			
【施策15】 文化の継承と発展		社会教育課	
★① 指定文化財の保存・保護活用、後継者の育成		A	○
② 文化財や伝統芸能の資料収集及び調査研究			○
③ 文化資源の活用			○
④ 文化財指定基準の運用			○
【施策16】 豊かな自然と文化財を愛する心の育成		社会教育課	
① 文化財の情報発信と周知		A	○
② 自然・歴史資源の発見と活用			○
★③ 歴史民俗資料館運営の充実			○
【施策17】 生きがいと共生、文化芸術活動の推進		社会教育課	
① 市民文化活動への支援		A	○
② 文化や芸術に親しむ機会の提供			○
★③ 市民参加型による芸術創作活動の奨励			○
④ 多様な文化芸術活動の支援			○
「基本目標6」 スポーツ活動の振興			
【施策18】 スポーツ活動の充実		スポーツ課	
★① 子どものスポーツ活動の推進		A	○
② 高齢者や障がい者スポーツ活動の推進			○
★③ 市民参加型スポーツ活動の推進			△
④ スポーツ観戦機会の創出			○
【施策19】 スポーツ施設・備品の充実		スポーツ課	
★① 体育施設の充実		A	○
② スポーツ備品の充実			○
【施策20】 スポーツ指導者・団体の育成		スポーツ課	
① スポーツ団体の育成		A	○
★② 指導者の育成と確保及び活用			◎
③ 競技スポーツ活動の支援			○

## (5) 施策の総合点検評価

### 基本目標 1

子ども・子育て支援の充実  
(こども未来課)

	担当課	こども未来課
基本目標	1 子ども・子育て支援の充実	外部 検証 評価  <b>拡充・推進</b>
施策	1 就学前教育・保育の総合的な提供	
施策方針	子どもたちの「生きる力」の基礎を育て、心身の発達を促します。	評価 段階  拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分	評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S 予定以上に進んでいる	A	研究会、研修や巡回相談などを通じて、幼児教育・保育の質の向上、小学校や関係機関との連携を図ることができた。「海津市公立認定こども園民営化・統廃合計画」通り、令和5年4月「今尾コスモスこども園」を開園することができた。
A 予定どおり進んでいる		
B 少し遅れている		
C 大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R4)	目標値 (R4)
特定教育・保育施設 利用者数	1,050人	768人	787人
待機児童数	0人	0人	0人

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和4年度の重点的な取り組み)

①認定こども園における幼児教育の推進		
取組目標	子どもがのびのびと活動できる環境設定とふさわしい基本的な生活習慣、規範意識、道徳性が身につくよう指導計画や指導方法の充実を図る。また、自然体験、生活体験、社会体験の学習機会の導入に努める。	
★ 年度計画	公立認定こども園では、指導主事訪問の実施や指導員・専門機関の講師を招いての園内研究会のほか、特別支援教育や医療的ケア児について、必要な勉強会をタイムリーに取り入れ、保育の質の向上を図る。 園児の主体的活動を願い、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を目指し、環境の工夫や指導・支援の方法を探る。また、園児の知的好奇心や学び意欲を向上させるために、様々な体験活動を導入する。	内部評価
★ 実績成果	指導主事訪問を実施し、幼児教育の指導(5歳児)を受けた。専門機関の研修会を実施した。また、医療的ケア児についてなど、タイムリーなテーマを取り入れた勉強会を実施し、保育の質の向上を図ることができた。 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を目指し、園児が主体的に活動できるような英語教室、サッカー教室、お茶会などの体験学習を行うことができた。	○
課題	指導や研修の内容は、園内研修などで情報共有を行っているが全ての保育教諭が研修に参加できる時間や機会を確保する必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

②小学校との連携強化

取組目標	園・小連携協議会などを通じて、園児と児童の交流や教職員と保育教諭の交流を実施し、相互に子どもの発達や学びに対する理解を深め連携強化を図る。また特別に配慮を要する子どもについては、関係諸機関と情報を共有し、切れ目のない支援を繋げていく。	
年度計画	園・小連携協議会や小学校との交流活動を通じて、園児と児童・教員と保育教諭との交流を実施し、一層の相互理解を深め連携を図る。特別に配慮が必要な子どもについては、関係機関と連携を図るとともに引継ぎ会などの機会を有効活用し、途切れのない支援を行う。	内部評価
実績成果	年3回の園・小連携協議会や小学校との交流活動を実施した。年度初めには、認定こども園の保育教諭が新1年生の授業参観を行い、夏休みには小学校教諭が保育を参観した。授業や保育を参観することで、認定こども園と小学校が互いの教育への関心を高めることができた。	○

課題	認定こども園と小学校が、互いの教育内容や取組み方法について理解し、そのうえで切れ目のない支援に向けた具体的な方法を継続して研究する必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず
----	---	--

### ③配慮が必要な子どもへの支援

取組目標	市発達支援センターが中心となり、巡回相談を通じて障がいなどの早期発見、早期支援に努める。また、障がいのある子を受け入れるように、保育教諭などを加配する療育支援体制強化事業を促進する。	
年度計画	市発達支援センターくろみ主催の巡回相談（年2回）や自主研修会（年8回）を通じて、障がいなどの早期発見や適切な支援について情報を共有し、指導方法を学ぶ。障がいのある子を受け入れるよう療育支援体制強化事業を活用し、体制を整える。	内部評価
実績成果	巡回相談や自主研修会を通じて、支援を必要とする園児への適切な支援方法を学び、関係機関との連携を図ることができた。療育支援体制強化事業を私立5園が活用し、体制を整えることができた。	○
課題	集団生活において支援を必要とする園児が増加傾向にあるため、集団生活での園児の様子を保護者へ伝えて情報共有を図る必要があるが、保護者に対しての家庭支援が必要となる場合も多くなることから、関係機関との連携をより強化し、適切な支援につなげていくことが課題である。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

### ④就学前教育・保育施設の整備

取組目標	人口減少に対応した市内全域における就学前施設の適正配置の検討を進める。また、子どもが安全で安心して生活でき、災害発生時にも一時避難ができる安全な施設や設備の環境整備に努める。	
年度計画	民営化・統廃合により新設となる今尾コスモスこども園の施設整備を行うとともに、令和5年4月開園に向け、認可申請等、必要な届出を行う。災害時における各認定こども園の避難確保計画について必要に応じて更新を図る。	内部評価
実績成果	民営化・統廃合により新たに創設した今尾コスモスこども園について、令和5年4月の開園に向け、園舎の施設整備に対する補助金の交付、認可申請等の必要な届出を行った。	◎
課題	少子化が著しく進行する中、就学前施設の適正配置については、今後も更なる検討が必要である。また、子どもが安全で安心な園生活が送れるよう、各種マニュアルや計画の見直しを図っていく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

### ⑤保育教諭の資質向上

取組目標	就学前の子どもが同一水準で質の高い教育・保育を受けられるように、海津市幼児教育・保育研究会での研究・研修を進める。また、認定こども園での教育・保育内容の充実を目指し、市の保育協会などによる各種研修や交流機会を充実し、保育教諭などの資質向上を図る。	
年度計画	市幼児教育・保育研究会にて毎年テーマを決めて年5回研究・研修を進める。また、市の保育協会による研修会に参加し、公立・私立の保育教諭の交流と資質向上を図る。	内部評価
実績成果	「自ら生き生きと造形表現できる援助方法と素材の工夫」をテーマに、市内全園の5歳児担任と小学校教諭（代表3校）が参加し公開保育、公開授業による研究を行い幼児教育の理解を深めることができた。	○
課題	幼児教育・保育研究会については、園の行事等に重なるなど担当者の欠席があるため、日程調整や、連絡を密に行う必要がある。研修会については、毎回40人程の保育教諭が参加できたが、参加率が上がるよう工夫する必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

施策の総合点検評価

担当課

こども未来課

基本目標	1 子ども・子育て支援の充実	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	2 子育て家庭への支援の充実		
施策方針	すべての家庭が安心して子育てでき、育てる喜びを感じられるように子育て支援サービスを充実します。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	私立園が9園から7園に、公立園も3園から2園に、様々な変遷があり、定員数などの推計の見通しが立たなかったことと、コロナ禍の影響で平常時の実績や今後のニーズの想定が困難であるという理由で、「第2期海津市子ども・子育て支援事業計画」の見直しは行わなかった。 新型コロナウイルス感染症が5類に変更になることで、ニーズの変化への柔軟な対応や妊娠期から子育て期に渡る包括的な支援体制の提供に努めていく。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時(H27)	実績値(R4)	目標値(R4)
地域子育て支援拠点 延べ利用者数	17,838人	11,381人	13,500人
留守家庭児童教室利用者数	360人	312人	400人

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和4年度の重点的な取り組み)

①多様な子育て支援サービスの充実

取組目標	子育て支援ニーズを把握し、計画的に子育て支援サービスを提供できる体制を整備する。また、共働き世帯が働きながら安心して子どもを預けられるように低年齢児保育事業、延長保育事業、一時預かり事業、留守家庭児童教室事業などの多様な子育て支援サービスの充実に努める。	
年度計画	現在の子育て世帯の多様な働き方や取り巻く周囲の状況を考慮し、低年齢児保育促進事業や延長保育事業、一時預かり事業、留守家庭児童教室事業などを通して地域の子育て支援を推進して行く。	内部評価
実績成果	全園において低年齢児保育、延長保育、一時預かり事業を実施し、保護者が安心して子どもを預けて働ける環境を提供することができた。 保護者や同居する家族が就労等により不在となる家庭の児童に対し、放課後や週末等に学校等の安全な場所において居場所を確保することができた。	○
課題	令和5年度より、一時預かり事業を拡充し、満3歳未満の子どもを持つ保護者を対象に「子育てエンJOYクーポン」を交付した。利用者の増加を見込んでいるが、園の保育教諭の不足により、希望日に利用できないことが懸念されるため、保育士を確保するための補助事業等を調査研究していく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



高須認定こども園(すこやか園舎)



今尾認定こども園

## ②相談体制の充実

取組目標	地域子育て支援拠点事業を提供し、子育てに不安や悩みをもっている親に対する相談・援助の機能を充実する。また、市民が積極的に子育て支援に関わることを促進し、地域子育て機能の強化を図るとともに、子育てを支援する人材の育成に努める。	
★年度計画	子育て世代包括支援センターとして、市の部局（健康課）と協同し、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない総合的な支援を提供するとともに、関係機関と連携し、相談体制の充実を図る。	内部評価
実績成果	母子保健事業（母親学級やベビママ学級、1歳児・2歳児教室）を健康課と協同することで、早い時期からの周知・利用促進・発達支援等関係機関との連携につながった。また、子育て家庭の困り感に小さい段階から関わることができ、早期の予防支援を行うことができた。	○
課題	少子化や認定こども園の入園の低年齢化により、市内全体の相談件数、延べ利用者数は減少傾向である。育児不安を抱えやすい出産後間もない親子が安心して過ごせる日やスペースを設けるなど、子どもの育ちや子育てニーズの変化に合わせた柔軟な対応や活動内容を見直し、子どもを遊ばせながら気軽に相談できるような各拠点での工夫が、より必要である。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

## ③情報提供の充実

取組目標	「海津市子育て支援ガイド」を定期的に作成し、子育てに携わる市民や転入者に配布し、子育て支援サービスの利用を促進する。また、本市での子育てに関する情報を発信するホームページ内の子育て支援サイトの充実に努める。	
★年度計画	市ホームページやキッズコミュ海津市子育てフェイスブックを通じて、子育てに関する情報を発信する。健康課と連携し、市内の子育て支援センターの情報を母子保健事業の会場で配布するなど情報の発信を図る。	内部評価
実績成果	市報やキッズコミュ海津市子育てフェイスブックを通じて、活動内容の報告や活動の告知を定期的に発信することができた。	○
課題	市報やフェイスブックに限らず、利用する人が多いSNS等を積極的に利用し、子育て支援に関する情報が広く届けられるよう努めていく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



石津認定こども園



子育て支援センターかいづ

# 基本目標 2

## 学校教育の充実

(教育総務課・学校教育課)

施策の総合点検評価

担当課	学校教育課
基本目標	2 学校教育の充実
施策	3 生きる力を育む教育の推進
外部 検証 評価	継続・妥当
評価 段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

施策方針  
子どもたちが確かな学力を身につけることで「生きる力」を育み、豊かな人間性を育てていきます。

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分	評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S 予定以上に進んでいる	A	各学校、思考力・判断力・表現力と主体的に学ぶ力を育てる授業を実施するために、GIGAスクール構想で整備されたICT環境を活用できる施策を重点的に取り組んだ。ICT支援員の配置、AIDリルや電子書籍の導入などスピード感をもって実施し、ICT教育の先駆的な実績ができた。
A 予定どおり進んでいる		
B 少し遅れている		
C 大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 津海市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R4)	目標値 (R4)
学校が楽しいと思っている児童・生徒の割合	80%	87.1%	81%

学習状況調査結果より (対象: 小6、中3)

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和4年度の重点的な取り組み)

①「軸」を明確にした学校経営の推進			
取組目標	学校の特色を活かし、目指す子どもの姿をもとに目標を掲げ、それを具現化に向けた「軸」を明確にした学校経営を行う。		
年度計画	校長が「軸」を明確にした学校経営を行う。また、市教委訪問、生徒指導訪問などの機会を通して達成状況を見届け支援する。		内部評価
実績成果	各学校で校長が示す「軸」をもとに学校運営ができた。全ての学校に、市教委訪問と生徒指導訪問をそれぞれ年1回ずつ行った。訪問では各学級でICT機器を活用した授業を参観した。校長の学校経営方針をもとに、教職員や児童生徒の様子や教頭、教務主任、生徒指導主事の取組について助言ができた。		○
課題	地域の特色、児童数など学校の特色をさらに生かした学校経営を、校長のリーダーシップのもとで行っていく。引き続き、学校訪問の機会に児童生徒の様子から各学校の達成状況を見届ける必要がある。		◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

②確かな学力を身につけることで「生きる力」を育む指導の充実

取組目標	学習のねらいを明確にし、「生きる力」を一人一人に対し育成していくための指導の工夫と充実を図る。		
年度計画	学習のねらいを明確にした指導計画に基づいた指導を行う。各種指導計画についての実施状況や、改善の状況を確認する。		内部評価
実績成果	各学校で教育計画を作成し、計画に基づいて、ねらいを明確にした授業を行うことができた。各種全体計画・指導計画についても、全ての小中学校で作成したものをまとめることができた。		○

課題	今までの指導計画の中に、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を意図した学習活動を積極的に取り入れていく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず
----	---	--

③基礎的な知識・技能を着実に身につける指導や取組の充実

取組目標	子どもたちに、生きて働く知識・技能を身につけるために、だれもがわかる授業を展開する。また、間違いやすい学習内容の確実な習得を目指すため繰り返し学習を行う。そのためにコンピュータの活用をはじめ実態に応じた個別学習の充実を図るなどして知識・技能の習得に努める。	
年度計画	小学校の教科担任制の導入をさらに進めたり、少人数指導を行ったりすることで、基礎的な知識・技能の定着に努める。また、タブレット端末を有効的に活用し、個別最適化された学習を進める。	内部評価
★ 実績成果	デジタル教科書と大型モニターを活用し、視覚的にも分かる授業を行うことができた。また、小学校1年生から中学校3年生にAIドリルを導入（導入は小学校5年生～中学校3年生）し、個々にあった問題を解きながら知識・技能を習得させることができた。 全小学校で教科担任制を実施した。小学校の算数、中学校の数学・英語で少人数指導を実施し、教師の専門性を生かした授業や個に応じた授業を行うことができた。	○
課題	学習者用デジタル教科書の実証事業が行われた。個別最適な学びが充実するように、学習者用デジタル教科書の有効利用に努める必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

④思考力・判断力・表現力などを育成する指導や取組の充実

取組目標	国語をはじめ各教科などにおいて、記録、要約、説明及び論述などの言語活動を取り入れ、言語の力を高めるための学習環境の充実を目指す。また、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、タブレットや電子黒板などを活用し、様々な授業形態の工夫などの授業改善に努める。	
年度計画	言語活動を意図的に取り入れた授業改善を進める。また、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、タブレット端末や電子黒板等を活用し、授業形態の工夫などの授業改善を進める。	内部評価
実績成果	全ての学校で、「思考力・判断力・表現力を高める指導の工夫」を研究の中心としを含む研究内容で校内研究が行われた。研究会を通して、主体的・対話的で深い学びを実現する授業の在り方を各学校で研修できた。また、大江小、下多度小、日新中で研究発表会を行い、市内教職員で研究成果を共有できた。	○
課題	主体的・対話的で深い学びを目指す新学習指導要領が、小学校・中学校ともに実施されている。仲間と学びあう仕組みやICTを活用した個別最適化された学びをさらに推進していく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

⑤学びに向かう力を高める取組の充実

取組目標	独自の教材や学習環境を積極的に活用することで楽しい授業づくりを進める。また、校外学習や体験活動の機会を増やすことや、専門性の高い外部講師を招くなど、子どもたちの学習に対する興味や関心を高めるように努める。	
年度計画	校外学習や体験活動、外部講師の講話などの機会を充実させ、地域の教育力を生かし児童生徒の学習に対する興味・関心を高めるように努める。また、児童生徒の主体的な学びにつながるよう、タブレット端末を活用した授業改善を図る。	内部評価
実績成果	新型コロナウイルス感染症の状況をみながら、校外学習を再開した。小学校では、自然に触れたり施設で学んだりする体験活動を行った。また、講師を招いての授業も多くの学校で行われた。全小中学校でタブレットを活用した授業を行った。総合的な学習の時間での調べ学習、デザイン作成、生活科や図画工作科の作品等の記録など、タブレットの活用の幅を広げることができた。	○
課題	地域ぐるみで子どもを育てていくことが、ふるさと教育にもつながる。地域人材を活用しながら、多くの体験活動を実施していく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

⑥多様なニーズを要する子どもに対応した教育機会の充実

取組目標	特別な支援を必要とする子どもたちと可能な限り、すべての子どもがともに十分な教育を受けられるように多様で柔軟な仕組みを整備する。また、子どもたちが安心して教育を受けられる魅力ある学校づくりを推進するとともに、不登校の子どもに対する多様で適切な教育機会の確保に努める。	
★年度計画	すべての子どもがともに十分な教育を受けられるよう、多様で柔軟な仕組みを推進する。また、適応指導教室を2教室に増やし、不登校の子どもに対する多様で適切な教育機会の確保に努める。	内部評価
★実績成果	高須フレンドリールーム、駒野フレンドリールームを有効に活用し、児童生徒の居場所となるよう個に応じた活動を行い、学校と連携を密にすることができた。両教室とも、Wi-Fi環境が整備され、AIドリルを活用したり、学校からの連絡をタイムリーに受け取ったりすることができた。学校だけでなく関係機関も含めて情報を共有しながら支援にあたることができた。	○
課題	高須フレンドリールームにおいては、活動場所が狭く、教材教具など学習環境が充実しているとは言えない。児童生徒及び保護者のニーズを捉え、適応指導教室の移設等検討が必要である。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

⑦外国語活動の充実

取組目標	A L T（外国語指導助手）や小学校外国語活動インストラクターを配置して、外国語科や外国語活動の授業における子どものコミュニケーション能力（身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合う力）の向上に努める。	
年度計画	全小中学校にA L T（外国語指導助手）を配置する。また、小学校5・6年生の英語科の授業には、英語インストラクターを配置し、コミュニケーション能力の向上に努める。	内部評価
実績成果	中学校には毎週、小学校には隔週でA L Tを配置し、外国語でのコミュニケーション能力を高める指導を行った。担任だけでは十分な指導が難しい発音面や会話場面などを補うことができた。 令和元年度から外国語インストラクターを1名増やし、5名配置している。研修を年2回実施した。指導方法の交流、国立教育政策研究所調査官の講話聴講、先進校授業参観などを通して研修することができた。	○
課題	小学校3年生以上の外国語・外国語活動にインストラクターを配置して、授業の充実を図る。一人のインストラクターの持ち時間を考慮すると、担任が中心となって授業を進めることができるよう必要に応じて担任への支援をする必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



タブレットを活用して仲間に説明している様子



ICT機器を活用した授業の様子

⑧キャリア教育の推進

取組目標	受入事業所となる企業の協力により、子どもたちの望ましい勤労観・職業観や人生観を育てる体験を支援することで、職場体験学習の充実を図る。	
年度計画	中学校2年生時に1週間の職場体験、またはそれに代わる職業体験講座等をすべての中学校で実施できるように支援する。	内部評価
実績成果	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止していた事業所での体験活動を再開することができた。また、各学校に事業所から講師を招き「職業体験講座」も実施した。体験活動を通して、生徒たちは、働くことの意義や価値を学ぶことができた。	○
課題	生徒が目的をもち、意欲的に体験に臨めるような事前、事後の指導の充実を図ることが課題である。5日間の職場体験を実施しているのは、県下でも海津市だけである。持続可能で、価値のある活動をしていく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

⑨郷土学習の推進

取組目標	ふるさと海津の歴史や自然に触れ、地域について学ぶことを通して郷土愛を育むための地域教材として「海津市郷土学習の手引き」の活用を目指す。	
年度計画	「海津市郷土学習の手引き」や地域資源・地域人材を活用した授業を推進する。	内部評価
実績成果	歴史民俗資料館や「ふるさとおもてなし隊」と連携し、地域を探索して学ぶ機会ができた。「海津市郷土学習の手引き小学校1年生～4年生版（身の回りの自然を調べよう）」は、小学校低学年の生活科や中学年の理科で多くの学校で活用できた。 平田中学校において、市内企業と連携してカリキュラムを作り上げ、「南濃みかんジュースプロジェクト」を実施することができた。	○
課題	地域人材不足の懸念があるが、今後も地域のことを深く学ぶ機会を増やしていく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



事業所での体験活動



市内企業と連携した「南濃みかんジュースプロジェクトポスター」

施策の総合点検評価

担当課	教育総務課 ・ 学校教育課
-----	---------------

基本目標	2 学校教育の充実	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	4 教育環境の整備・充実		
施策方針	子どもたちの安全・安心を確保し、超スマート社会（Society5.0）の実現に向け質の高い教育を支える教育環境の整備・充実を図ります。	評価 段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	教育施設では、長寿命化計画に基づき、海津町地域の小学校統合を踏まえ、効率的・効果的な教育環境の整備に努めている。また、国のGIGAスクール構想の実現に向けて、令和2年度に1人1台端末及び高速大容量通信ネットワーク整備を小中学校において完了した。今後は、これらを活用し多様な学びが展開されていくように、ICT環境の整備・充実を図る。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 基本施策に関する評価シート(★は令和4年度の重点的な取り組み)

①学校施設の老朽化対策及び長寿命化対策の推進

取組目標	各施設の劣化状況を把握するため、建築基準法に基づく点検を実施する。そして、今後の児童生徒数の推移を勘案しつつ長寿命化計画を策定し計画的な施設整備を推進する。また、学校施設の非構造部材の耐震化を着実に進め、必要に応じたトイレの洋式温水洗浄暖房便座化の充実を図る。	
★年度計画	学校施設の老朽化による施設修繕を施し、より安全で快適な学校施設として維持する。また、海津町地域の小学校統合計画を踏まえて、学校施設の老朽化対策及び非構造部材の耐震化など、改修工事の優先順位を設定しつつ、長寿命化計画の一部見直しを検討する。	内部評価
★実績成果	適切な維持管理を行うことで、子どもたちに安全で快適な学習環境を提供することができた。また、平田中学校体育館照明設備改修工事、高須小学校自動火災報知設備改修工事、下多度小学校高圧受電設備修繕工事を行うなど、老朽化に対応する工事も予定どおり実施することができた。	○
課題	学校施設の老朽化が進み、修繕費や維持管理の負担が増加している。このため、老朽化対策及び改修工事の優先順位を設定し、予防保全的な改修を計画的に実施していく必要がある。改修工事を実施するにあたり、財政負担が課題となるため、国庫補助事業を有効活用し、財源の確保に努めていく必要がある。また、閉校となる校舎の跡地利用を市長部局と連携し検討していく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



平田中体育館照明LED化



平田中体育館アリーナ床改修

## ②教育環境における情報機器設備の充実

取組目標	子どもたちの発達に段階に応じた情報活用能力の育成に努める。そして、電子黒板などの活用をはじめとするICT機器を活用した教育や体験活動の充実を図る。また、ICT機器やデジタル教材の活用に向けた教職員の研究体制や指導体制の充実を図る。	
★ 年度計画	ICTを活用した教育の充実を図るため、必要な情報機器等を整備したり、ICT支援員を小中学校に派遣する。また、オンライン授業を含め、ICTを活用した授業実践を推進する。AIドリルと電子書籍を導入し、家庭学習等の有効活用を推進する。	内部評価
実績成果	令和2年度にGIGAスクール構想のもとに全児童生徒に導入した一人一台端末を多様な場面で活用することができた。ICT機器を積極的に活用するためのICT支援事業の実施、児童生徒の理解度に応じた学習を提供できるAIドリルの導入等、整備したICT環境を積極的に活用し、個別最適な学びにつながった。	◎
課題	GIGAスクール構想のもと導入した全児童生徒の一人一台端末や電子黒板、その他のICT機器を、より一層積極的に活用するため、端末導入後も教職員への研修やサポートが引き続き必要である。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

## ③安全な通学路の確保

取組目標	交通事故の抑止や登下校防犯の推進を図るとともに、児童生徒の安全で安心な通学路の確保に向けた環境整備を関係機関と協力しながら推進する。	
年度計画	教育機関、警察署及び道路管理者等による通学路安全推進会議を継続的にを行い、通学路の安全対策を行うことで、通学児童・生徒の安全確保を図る。また、小学校統合に向けた、通学路の研究・調査を実施する。	内部評価
実績成果	市内の通学路について、児童生徒がより安心して登下校が行えるよう、通学路の安全対策を推進するため、3回の会議を開催した。通学路危険箇所の対策内容を市のホームページで公表した。海津町地域の小学校統合により、通学区域が拡大されることから、子どもたちが登下校する通学路の調査・検討を行った。また、養老鉄道と連携し「かいづっち養老鉄道応援バスポート事業」を実施した。	○
課題	小学校統合により、通学路の変更や交通状況等により、危険箇所の発生などが考えられることから、学校をはじめ関係機関による点検を継続的に実施し、通学路の安全対策を行う必要がある。また、対策箇所も多くあることから、効率的・効果的な安全対策が課題である。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



通学路安全推進会議

施策の総合点検評価

担当課

学校教育課

基本目標	2 学校教育の充実	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	5 豊かな心の育成		
施策方針	心のふれあいを大切にしたい温かい人間関係を通して、子どもたちの豊かな心を育みます。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	道徳教育や人権同和教育が各学校で確実に実践されている。また、体験的な活動を取り入れたり、日常生活の中で、多様な見方・考え方を認めながら他者を尊重したりすることを繰り返し指導している。学校の特色に合わせた体験活動や交流活動も積極的に行うことができた。今後は、地域の人材を有効に活用しながら、地域も巻き込んで豊かな心を育てる活動を推進していく。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 基本施策に関する評価シート(★は令和4年度の重点的な取り組み)

①道徳教育の充実

取組目標	人としてより良く生きる力を育むため、その基盤となる道徳的心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養う道徳教育を「特別の教科 道徳」をはじめ教育活動全体を通して推進する。そのためにも、保護者や地域との連携を深め、子どもの道徳性を地域社会全体で高める道徳教育を実施する。	
年度計画	「特別の教科 道徳」の授業の充実を図る。より良く生きる力を育むために考え議論する道徳の授業を実践する。また、コロナハラスメントについて考えるなど、教育活動全体を通じた道徳教育の推進に努める。	内部評価
実績成果	道徳的価値を自分との関わりで考えるとともに、多様な感じ方や考え方に接して、物事を多面的・多角的に考えるなど、主体的に自己の生き方についての考えを深めることができる道徳授業を目指す取組を行った。日新中校区の学校で授業公開を行い、よりよい授業にしていくための研究会を行うことができた。	○
課題	道徳的な価値の理解を実感するために、多様な考え方、感じ方を出し合うことが重要である。そのため、「考える道徳」「議論する道徳」を目指し指導を更に工夫する必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



仲間とグループになって学び合う授業の様子



仲間の意見から考えを深める授業の様子

## ②多様な体験活動の推進

取組目標	各学校の実態に応じ、各教科や総合的な学習の時間、特別活動など教育活動全体を通じて、自然体験、社会体験、ボランティア体験、異学年や高齢者との交流活動などの体験的・実践的活動を推進し、子どもの豊かな感性や情操を育む。	
年度計画	地域の教育力を生かし、校外学習や、ボランティア体験、職場体験などの活動を通して、豊かな感性や情操を育むことに努める。	内部評価
実績成果	小学校では野菜の収穫などの農業体験、園児や地域の方との交流活動を行った。中学校では、「地域の人々から学ぶ」体験など、それぞれの学校の実情に応じた体験的学習を推進することができた。	○
課題	教科の学習内容や授業時数が増えた中で、体験活動の時間を確保していくために、カリキュラムマネジメントの視点から計画を見直していく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

## ③人権同和教育の推進

取組目標	人権尊重と人間平等の基本理念を確立するとともに、人と人との間に存する偏見を解消する指導を行い、不合理な差別をなくし、自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができる教育を推進するように努める。また、家庭及び地域社会において人権意識の高揚を図る。	
年度計画	各学校において、年間を通して人権について考える活動を位置付けるとともに、「人権について考える会」を実施する。また、各学校の人権に関する取組についての報告集を作成する。	内部評価
★ 実績成果	各学校で「ひびきあい活動」に取り組み、思いやりの心を持ち、人を大切にすることを推進した。この取組については、全校で交流する機会を設け、人権について考えたりする「ひびきあいの日」を全学校で実施した。各校で取り組んだ取組は、一冊の報告集としてまとめ、各校・園の全教職員に配付し共有することができた。	○
課題	多様化する社会の中で、LGBTの問題やインターネット上の人権侵害など、今日的な人権課題についても取り組んでいく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



ひびきあい集会で学級の取組を  
発表している様子



地域の方から花の育て方を  
教えていただいている様子

施策の総合点検評価

担当課

学校教育課

基本目標	2 学校教育の充実	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	6 教職員の資質の向上		
施策方針	個々の教職員の力量と組織での対応力の向上を図ります。	評価 段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	教職員の資質向上を図るために、校内、校外でさまざまな研修を行うことができた。特に、教育研究所主催で、キャリアステージに応じた研修のほか、教科指導や生徒指導、郷土学習など、学校での指導に生かせる内容を工夫して行った。今後は勤務の適正化との両立を図りながら、ニーズに合った研修を企画し、効率よく実施していく必要がある。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 基本施策に関する評価シート(★は令和4年度の重点的な取り組み)

①「海津市教育のスタンダード」の活用

取組目標	だれもが実践でき、だれにも力をつけることができる指導理念である「海津市教育のスタンダード」の理解と実践を図る。また、学級経営力、授業力を高めるために、小中学校教員が互いの教育課程や指導内容のつながりを把握し、義務教育9年間で児童生徒を育てる。	
年度計画	授業における各校のスタンダードを作成し、スタンダードをもとにした授業を実践する。	内部評価
実績成果	各校で授業のスタンダードが作成され、共通して実践することを明らかにし、学校としての統一感のある授業づくりが行われた。教科研究会では、理科、音楽、技家、図工・美術、外国語、特別支援の部会で小中合同で研究会を行い、義務教育9年間のつながりの把握に努めることができた。	○
課題	どの学校でも若手教員の占める割合が増えてきているため、各学校の教務主任や研修主事を中心に、一層スタンダードを工夫・活用して、教員の指導力をさらに高めていく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

②教職員研修の充実

取組目標	「海津市教育研究所」を核として、教職員の経験や時代の変化に応じた研修の充実を図る。また、教員としての専門性や今日的な教育課題への対応力を高めるため、大学などの関係機関との連携を強化する。	
年度計画	ICT活用技能、デジタル教科書の活用など、学校教育の新たな課題に応じた研修を充実させる。また、学校や教職員のニーズに応じたオンデマンド研修を行う。	内部評価
★ 実績成果	研究所主催で「中堅幹部研修」「若手人材養成研修」「バディ研修(2年目研修)」などキャリアステージに応じた研修、市内全教職員を対象として希望制の夏期講座(9講座)を企画運営した。また、各学校からの要望に応じ、教職員の指導力を向上させるためのオンデマンド研修(15回)を行った。(研修講座 全32回)	○
課題	指導者用デジタル教科書の活用やプログラミング学習、AIドリルの活用など、ICT教育に関わる研修を充実させていく。今後も、より学校現場のニーズに応え、効果的な活用につながる研修内容を考えていく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

③特別支援教育に関わる教職員の研修

取組目標	特別支援コーディネーターなどを中心として、園・学校の全職員が計画的な研修を行う事を通して、特別支援教育に対する理解を深めるとともに、就学前から園や特別支援学校との連携も図りつつ、組織的な動きを支援する。	
年度計画	教育支援委員会を開催し、情報交流を図る。 園・学校ごとに計画的な研修を行い、実践内容を報告する。	内部評価
実績成果	7月と10月に教育支援委員会を開催し、適正な就学指導について情報交流を行った。また、年間を通して、各園・学校で特別支援教育についての研修を計画的に行い、全職員が特別支援教育についての理解を深めることができた。	○
課題	研修によって理解を深めたが、それを実際に一人一人の子どもに合わせて適切な支援を行えるよう、確実な実践力につなげていく必要がある。また、市主催の研修会等に参加して学んだことを、参加者が積極的に学校へ伝えていく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

④研究授業や公開授業、交流授業などの促進

取組目標	市内小中学校での公開授業の参加や、就学前と小学校、小学校と中学校との交流授業を促進することや、中一高との連携を図るなど、教育の質の向上に努める。	
年度計画	各校の研究授業の一覧を作成し、それを活用した授業交流を促進する。 認定こども園と小学校の交流を充実させる。	内部評価
実績成果	各学校で計画されている研究授業について、教育研究所で集約して一覧にまとめて各校に配付し、他校の研究授業にも積極的に参加するように働きかけた。幼稚園及び小学校の教職員が参加する連携協議会を年2回実施し、意見交流を行うことによって、園小の交流活動を充実させることができた。	○
課題	各校の授業研究が積極的に行われるよう、今後も働きかけを継続する。学校間の授業交流を促進するためには、補充に対応できるような人的配慮等も必要である。高校とも連携を図りさらに教育の質の向上に努める必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

⑤子どもと向き合う時間の確保

取組目標	教職員の事務負担の軽減は、教職員が授業や授業準備などに集中し、子どもと向き合う時間を確保するとともに、心身の健康を損なうことがないように、教職員の勤務時間及び内容に関する実態改善に向けた総合的・計画的な取り組みを推進する。	
年度計画	休日を含めた時間外勤務時間を正確に把握する。時間外勤務時間80時間以上の職員の心身の健康状態を確認し、働き方改革を進める。 メンタルヘルスチェックを毎月行い、教職員の心身の状況を把握する。	内部評価
実績成果	全職員の時間外勤務について正確に把握するために、全小中学校に勤怠管理システムを導入している。1カ月時間外勤務45時間以内を目指し、各校で工夫した取組を行うことができた。時間外勤務時間が80時間を超える職員については、管理職が面談を行い、心身の健康状態を確認するとともに、適正な働き方について指導を行った。	○
課題	働き方改革の意識は確実に浸透しつつある。勤務の適正化について、これまでの通例にとられない業務の削減や行事の見直しは、引き続き必要である。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

施策の総合点検評価

担当課

教育総務課（給食センター）

基本目標	2 学校教育の充実	外部 検証 評価	拡充・推進
施策	7 学校給食の充実及び食育の推進		
施策方針	子どもたちが自ら健やかな体をつくることに関心を持ち、積極的に健康や食生活にかかわる態度を育成します。また、学校給食の公会計事務化の実施や故障などによる緊急時の対応策を図ります。	評価 段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	令和4年度においても、新型コロナウイルス感染症拡大に配慮した衛生管理の徹底を心がけ安全・安心な給食の提供を実施した。今後も衛生管理の徹底を継続し、安全・安心な給食を提供するとともに、学校・認定こども園、地域、家庭と連携し、物価の高騰が進むなか給食内容の質を落とすことなく給食を提供し、食育の推進を図っていく。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 基本施策に関する評価シート(★は令和4年度の重点的な取り組み)

①地域全体で取り組む食育の推進

取組目標	学校年間指導計画に基づき、学校・園、家庭、地域が連携して、次代を担う子どもの望ましい食習慣の形成に努める。また、学校における食育を推進するために、学校給食の教育的意義を見直すとともに、学校の教育活動全体で食に関する指導の充実を図る。	内部評価
★ 年度計画	学校教育活動全体で食育推進を図り、子どもたちの望ましい食習慣の形成に努める。また、学校と地域において連携・協働し、地域産物の給食への使用拡充を図る。	◎
★ 実績成果	JAにしみのや大垣公設市場と連携し、地場産物の給食への使用拡充につなげることができた。児童生徒の地場産物への関心や理解を深めるために給食の時間や学級活動の時間に実物の地場産物を用いて指導したり、生産者の工夫点などについても説明したりするなど理解を深める工夫を行った。児童と生産者をつなぐ活動としては、生産地の見学や教科の時間に生産者の方を講師に招いたり、ふれあい給食会を開催したりするなど交流を深めることができた。また、地元生産者から野菜の寄贈について小中学校に情報提供を行うことで、児童生徒が感謝の心を持つことに繋がっている。	
課題	給食センターが、小中学校の食育推進の拠点となり、市民全体の食育推進により一層取り組む必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



海津市学校給食センター(平田町今尾地内)

②学校給食の充実		
取組目標	郷土料理や外国料理だけでなく、時代の要請に即した献立を取り入れ、栄養バランスの取れた魅力ある学校給食の提供を目指す。また、地場産物の活用を図り食育の生きた教材となる学校給食の充実を図る。	
年度計画	日本の和食文化継承のため、児童生徒の嗜好も考慮しつつ、和食給食を中心とし、学校給食の充実を図る。	内部評価
実績成果	毎月1日と食育の日に、地場産物を使用した献立を取り入れることで、時期に適した農作物を計画的に使用することができた。地場産物の活用については、献立表や放送資料等で紹介し、児童生徒や家庭の興味関心を高める働きかけを行った。 米飯を中心に、主菜・副菜・汁物のそろった和食献立の提供に加え、日本特有の食材を積極的に活用することで、児童生徒が和食文化について関心を持って献立を提供することができた。	○
課題	本市の特産物について、児童生徒や家庭に、十分に知られていないのが課題である。地場産物の活用やその利点について引き続き周知を行っていく必要がある。 和食献立の魚料理や野菜料理は残量が多い傾向があるので、味付けや調理法を工夫しつつ、継続して指導を行っていく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

③学校給食の衛生管理と事故防止の徹底		
取組目標	衛生管理や事故防止の徹底を図るため、給食施設や調理機器の適正な管理にあたるとともに、さらに給食調理員や学校給食職員の徹底した衛生管理のうえで安全で安心な給食を提供する。	
年度計画	給食施設や調理機器の適正な管理にあたるとともに、衛生管理マニュアルに基づき、給食調理員や学校給食職員等に衛生管理を徹底し、安全で安心な給食を提供する。	内部評価
実績成果	「学校給食衛生管理基準」や「海津市学校給食センター衛生管理マニュアル」に基づき、調理従事者一人一人が常に危機管理意識をもち、調理に携わることができた。 定期的に食品検査や拭き取り検査を実施し情報を共有することで、調理従事者の意識の向上につなげることができた。	○
課題	給食食材や調理品に異物が混入していないか常に意識して取り扱い、事故防止を図る必要がある。 給食食材への異物混入を防止するため、定期的に食品検査を実施し、納入業者や製造業者への指導を継続して行う必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

④学校給食センターの効率的な運用・整備		
取組目標	学校給食の質の維持を図りながら、より効果的な給食調理業務・配送業務の運用を実施するために民間委託化を継続する。また、安全で安心な学校給食の提供に努めているものの、機械の稼働保証期間経過後の故障や経年劣化による施設修理費の増加が見込まれる中、さらに運用費の抑制に努める。	
年度計画	給食センター新築後13年が経過し、耐用年数も経過している調理機器等の更新を行う。また、光熱水費等の削減に努める。	内部評価
実績成果	調理を行う委託業者には、光熱水費が高騰傾向にあることから、電気・ガス・水道水の適切な使用とその削減を図るよう対応した。給食設備の故障、不具合等が発生した際には、早期対応をすることができた。 また、給食センター稼働後13年を経過する機器について、更新計画に基づきシステム食器やトレー洗浄機を含め計7基の更新工事を行うことができ、食器洗浄時の節水や時間短縮などに繋がった。	○
課題	今後は、更新計画に基づき給食設備・調理機械の更新を行う予定であるが、それまで適正な管理を図る必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

⑤学校における事務負担の軽減

取組目標	教職員の働き方改革として、教職員の事務負担の軽減に向けた、業務の役割分担・適正化を進めるため給食費の公会計事務化の調査・研究を進める。	
年度計画	教職員の事務負担の軽減に向けた業務の適正化を進めるため、給食費の公会計事務化の準備を進める。	内部評価
実績成果	毎月給食費を計算し、各学校、認定こども園に納付書を発行し、徴収することができた。また、徴収事務の公会計化に関して、他市町の状況把握を行った。	○
課題	公会計化を図るには、人員の確保やシステム導入に係る構築体制が必要があり、導入実績のある市町村では、給食費の未納が増額したなど懸念される事項を解消する取組みを引き続き研究する必要がある。また、給食費の無償化については、引続き県下及び西濃圏域の自治体の状況を鑑み、無償化の実施（対象者及び実施時期）を見極める必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

⑥給食の提供における緊急対応

取組目標	給食設備や調理機械などの故障による迅速な復旧体制や、故障時における学校給食の提供にむけた緊急時の対応策について調査・研究を進める。	
年度計画	給食設備や調理機械などの点検結果に基づき、早急に対処する。また、故障が発生した際、迅速な復旧体制が図れるよう委託業者と連携し、欠食の回避に努める。	内部評価
実績成果	給食提供にあたり、設備・調理機械等における給食提供を停止するような大きな故障等はなく、計画どおりに提供できた。また、委託業者とは、機械の故障・不具合等が発生した際は、早期に連絡し連携を取ることができた。	○
課題	給食が提供できない場合は、備蓄の代替品（救給力レー、救給コーンポタージュ）での対応となるが、備蓄量にも限りがあり、長期化する場合には、保護者への昼食準備の負担も検討する必要がある。また、給食設備・調理機械の保守点検等により、機械設備の状況把握をする必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



JAIにしみの海津胡瓜部会から「きゅうり」の寄贈



寄贈のきゅうりを使用した「きゅうりの昆布和え」

施策の総合点検評価

担当課	教育総務課
-----	-------

基本目標	2 学校教育の充実	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	8 児童・生徒の減少に伴う課題の検討		
施策方針	今後、少子化が進むことが予想される中、義務教育の機会均等や教育水準の維持・向上の観点から、学校規模の適正化や学校の小規模化に伴う諸問題への対応について継続的に検討していきます。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	令和3年4月28日に策定した「海津町地域小学校統合基本計画」に基づき、海津町地域の5つの小学校を令和6年4月1日に統合し、新たに、現高須小学校の位置に開校予定とした。開校に向け、地域住民、保護者などで構成する「海津町地域小学校統合準備委員会」（以下、「統合準備委員会」という。）にて協議・調整を図るとともに、施設整備を行い、受け入れる体制を整える。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 基本施策に関する評価シート(★は令和4年度の重点的な取り組み)

①「海津市小中学校の適正規模等に関する検討委員会」の設置と協議

取組目標	児童生徒の減少が進む中で、学習環境の充実、指導の充実、教育水準の維持向上を図る観点から学校規模の適正化や学校の小規模化に伴う諸問題への対応について継続的に協議する。	
★年度計画	海津地域の5校が「望ましい学校規模（1学年2クラス以上）」へと学校統合を図るべく、統合準備委員会にて保護者・地域と学校間で連携し、令和6年4月の開校へ向け、引き続き、学校施設整備や統合による調整事項の協議を行う。	内部評価
★実績成果	施設整備から、学校運営など広範囲にわたる様々な事案について、5校の教職員が主構成員となる4つの専門部会にて協議・調整を行い、統合準備委員会にて合意形成を進めることができました。	◎
課題	海津町地域小学校統合基本計画で、「統合の実施時期を令和6年4月1日」としているため、社会情勢等先行きが見通せない状況下であっても計画的に遅滞なく全ての事案を進める必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



海津小学校北舎増築等完成イメージ

## 基本目標 3

生涯学習環境の整備・充実  
(社会教育課)

施策の総合点検評価

担当課	社会教育課
-----	-------

基本目標	3 生涯学習環境の整備・充実	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	9 継続的な学習・交流の場の形成		
施策方針	生涯にわたって、「いつでも」「どこでも」「だれでも」「何からでも」主体的に幅広い生涯学習の機会を享受できる学習環境の整備を図り、一人一人の「生きがいつくり」や「地域を支える人づくり」など心豊かな生活を送ることができるように学習環境の充実に努めます。	評価 段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分	評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S 予定以上に進んでいる	A	生涯学習環境の整備・充実について、講師運営型の「市民カレッジ・キッズカレッジ」をSNS等を活用して周知を行い開講することができた。施設についてはWi-Fi環境の整備を行うことができた。 今後は講座内容や参加日時等市民のニーズを把握するため、適宜アンケートを実施し企画の見直しをかけていく。また施設について引き続き市民が安全安心して利用できるよう施設整備を行っていく。
A 予定どおり進んでいる		
B 少し遅れている		
C 大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R4)	目標値 (R4)
生涯学習講座 受講者数	1,311人	513人	800人

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和4年度の重点的な取り組み)

①生涯学習ニーズの把握

取組目標	市民の生涯学習ニーズを的確に把握して、講座の開設や既存講座の見直しなどを行い、目的に応じた学習内容の充実に図る。	内部評価  ○  ◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず
★年度計画	参加者の意見を尊重した講座を行い、社会教育活動について自ら主体的に学びやりがいを持って活動できるようにする。また、自分自身や生活を充実させ活力ある地域や社会をつくるなど、自己に適した手段・方法を選んで、生涯を通じて行える活動を目指す。	
★実績成果	生涯学習講座について、コロナ禍により開催中止や参加者の減少があったが、令和4年度は、25講座(成人向け講座・子ども講座)を企画し、そのうち21講座を開講し、513人が受講することができた。	
課題	市民主導型の生涯学習講座をさらに広く展開していくため、市民講師と市民のニーズを把握する必要がある。	



子ども供将棋教室



わくわく子ども教室

②学習情報の収集・整備

取組目標	各種講座や教室など、市民が学習の機会に関する情報を得る手段としては、市の広報紙やインターネット、口コミなどが考えられる。また、最新の情報を提供するために学習情報を収集し、メディアなどを活用して、連携が図れるように努める。	
年度計画	市報、チラシの既存周知方法だけでなく、市ホームページ、メール配信やケーブルTV等メディアを通じて情報発信し、開催の告知を図る。	内部評価
実績成果	市ホームページやチラシ等の既存の周知方法のほか、公式ライン等SNSを活用し開催の告知を実施した。	○
課題	各種講座の内容に合わせた、より効果的な告知方法を図る必要がある。また講座の周知については、現行の方法のほか受講生からの口コミなども積極的に進めていく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

③社会教育施設などの整備とネットワーク化

取組目標	公民館や図書館などの社会教育施設が、地域コミュニティ形成の拠点としての役割を果たし、だれもが気軽に立ち寄り、情報交換や交流ができる場所となるように改修などを計画的に進める。また、学習機会の確保や公平性を考慮しながら、施設の統廃合やネットワーク化の検討を進める。	
年度計画	クラブ・サークル等主体的に活動されている団体の活動情報等を提供する。また老朽化施設の統廃合の検討を順次行う。	内部評価
実績成果	福祉センターについて、令和5年度に解体するため解体工事設計を実施した。 また、学習室があるふれあいセンター、働く女性の家、南濃コミュニティセンターについて、Wi-Fi環境を整備した。	○
課題	文化会館はS55に建築され老朽化が進行しており、また旧耐震基準のため施設の大改修が必要なことや、土地が借地であることを踏まえ、将来的に廃止する。しかし同施設は各種団体が活動場所として利用しているため、隣接施設を代替施設として活用できるよう地域や各種団体などから意見を聞きつつ、改修を行っていく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



南濃コミュニティセンター 学習室



働く女性の家 学習室

施策の総合点検評価

担当課

社会教育課

基本目標	3 生涯学習環境の整備・充実	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	10 多様な学習機会の提供		
施策方針	生きがいを持ち、文化的で心豊かな生活を送ることができるように、地域の中での学習活動を通して共生を目指します。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分	評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S 予定以上に進んでいる	A	平田図書館閉館に伴い、デジタル図書館を導入し全体の利便性向上を行った。今後はさらに市民のニーズに応じた蔵書や資料を充実させていく。デジタル図書館利用者のさらなる増加を図る方策を今後も検討していく。
A 予定どおり進んでいる		
B 少し遅れている		
C 大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R4)	目標値 (R4)
市立図書館貸出数	265,257冊	144,589冊	140,000冊

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和4年度の重点的な取り組み)

①生涯学習活動と指導者の育成

取組目標	市民一人一人が生涯学習を通じて、多様な学習活動ができるように、講座の充実や芸術・文化に触れる機会の提供、指導者の発掘・育成に努める。	
年度計画	生涯学習講座やクラブ・サークル団体一覧を冊子に掲載し、活動内容を周知する。	内部評価
実績成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習講座の案内冊子の作成 1,500部</li> <li>海津市クラブ、サークルの登録及び更新(登録団体数 134団体)</li> </ul>	○
課題	冊子や市ホームページでの周知のほか、SNSを積極的に活用し時代のニーズに沿った周知を行う必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



生涯学習講座の案内冊子



社交ダンスサークル

②生涯学習の意識啓発

取組目標	生涯学習に対する市民意識の向上を図り、啓発に努めるとともに、ニーズに応じた幅広い生涯学習の場を増やす。	
★ 年度計画	講座やイベント終了後にアンケート等を行い、市民のニーズの把握をし講座の企画に反映させる。	内部評価
★ 実績成果	開講した講座については、参加者の8割が満足という結果であった。また講座を継続して受講する生徒が増えている。	○
課題	誰もが手軽に楽しめたり、学習できるように在宅やオンラインで参加可能な講座を展開していく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

③図書館や歴史民俗資料館などの学習機関の機能充実

取組目標	多様で高度化する学習ニーズに応えるため、図書館などの学習機関を一層充実させ、利用者へのサービス向上と専門性の高い学習機会の提供に努める。	
★ 年度計画	電子図書を含め図書館蔵書の充実に努め、利用者の学習ニーズを考慮した施設運営を進めていく。また、市民の学習機会の充実のため歴史講演会等を開催する。	内部評価
★ 実績成果	平田図書館の閉館により、全体の貸し出し冊数は前年に比べ減少したが、デジタル図書館の導入により利便性が向上し、登録者数は令和3年末から増加傾向にある。 歴史民俗資料館では、なりきり武将体験など新規の催し物を開催したことから入館者が増加した。	○
課題	図書館では、テラス席の整備などより魅力ある図書館づくりに取り組み、「読書のまち宣言」の実現に向けた取組を図る必要がある。 歴史民俗資料館では、リニューアル工事を着実に進め、入館者の増加や施設の魅力向上を図る必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



季節や記念日をテーマとした本の展示(図書館)



銅鏡作り体験(歴史民俗資料館)

施策の総合点検評価

担当課	社会教育課
-----	-------

基本目標	3 生涯学習環境の整備・充実	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	11 新たな学習活動への支援		
施策方針	地域性や地域文化を大切にしながら、生きがいづくり・地域づくりにつながるまちづくりを目指し、市民力を活かした多様な学習活動の支援に努めます。また、地域の人々が互いに助け合える魅力溢れる生涯学習の推進を図ります。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	生涯学習講座については、市民カレッジ、キッズカレッジを開催することができた。今後は講師運営型の「市民カレッジ・キッズカレッジ」の活性化を図るため、ボランティア講師の確保と市民ニーズの調査を行っていく。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R4)	目標値 (R4)
—	—	—	—

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和4年度の重点的な取り組み)

①学習活動を支援する人材の活用

取組目標	地域の活動やボランティア活動を通じて、退職者や学習習得者がこれまで培ってきた技術やノウハウを市民に還元できるように環境づくりと人材の確保に努める。	
年度計画	市HPや講座の開催の際にボランティア講師制度を周知し新規の講師登録を推進する。	内部評価
実績成果	ボランティア講師登録している講師を活用し、市民カレッジとキッズカレッジを開催することができた。	○
課題	受講ニーズがあるボランティア講師の確保を継続し、今後は市民カレッジ講座数を増加し、市民の多様なニーズに応えられるよう整備していく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



サイエンスワールド(キッズカレッジ)

## ②高齢者のもつ技能の伝承

取組目標	地域の言い伝えや風習などの伝承を通して、子どもと高齢者が触れ合う機会を提供し、多世代にわたる市民交流を推進する。	
年度計画	地域で活動されている高齢者や団体の方を講師として講座を開催し、子どもと触れ合う機会を提供する。	内部評価
実績成果	R4年度は竹炭工作体験を開催した。参加者の9割から「講座が楽しかった」と回答があり、「また参加したい」との声が8割以上あった。	○
課題	市民の要望に応えることができるよう多様な講師の把握を行い、講座については改善すべき点を洗い出し、受講者の増加が図れるよう検討する必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

## ③学習機会の充実

取組目標	市民の学習ニーズに対応した学習機会を広く提供するとともに、市民協働や関係する係との連携・協力による学びの場を充実させる。	
★年度計画	「生涯学習講座のご案内」冊子において市政に関する出前講座を広く周知し、市民協働のまちづくり事業として市の部局(市民活動推進課)と連携を深め学習機会の充実に努める。	内部評価
★実績成果	「生涯学習のご案内」について、経費削減のため全戸配布していたものを、施設での設置や社会教育課主催事業の際に受付に設置することに変更した。講座の参加者募集は適宜市報等に掲載し、市民の学習機会の充実に努めた。	○
★課題	全戸配布を取りやめたことにより、市ホームページ、公式ライン等SNSを活用するなど、市民に広く周知していく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



竹炭工作体験

## 基本目標 4

### 青少年の健全育成

- 地域交流の推進  
(社会教育課)

施策の総合点検評価

担当課	社会教育課
-----	-------

基本目標	4 青少年の健全育成・地域交流の推進	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	12 地域で進める青少年の健全育成		
施策方針	世代・地域・心のつながりを強化し、地域ぐるみで良好な環境づくりを進め、青少年の健全育成を図ります。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	青少年の健全育成を図る関係諸機関と適宜会を持つことで、意見交流を行いながら進めることができた。コロナ禍の影響もあり、世代・地域・心のつながりは希薄となっており、アフターコロナにおいて、取り組む内容や企画の運営方法等を考えていく必要がある。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R4)	目標値 (R4)
成人の集い 参加率	78.7%	77.7%	80.0%

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和4年度の重点的な取り組み)

①「こども健全育成指針」の推進

取組目標	海津市青少年問題協議会において策定している「海津市こども健全育成指針」を市民に周知し、市民参加で推進する。	
年度計画	海津市青少年育成市民大会での活動発表等で周知を図り、啓発に努める。	内部評価
実績成果	青少年問題協議会や青少年育成推進委員会の開催によって、さまざまな立場や地域ごとの青少年健全育成に対する意見交換をすることができた。また、日頃から青少年のためにご尽力いただいている方々に対し、市民大会で感謝を伝え表彰した。	○
課題	青少年育成市民大会では、青少年関係者の表彰や家庭教育講演会を行っており、参加者の意見等を参考に市民大会の内容について見直す必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

②子どもの生活習慣の確立に向けた支援

取組目標	子どもの基本的な生活習慣の確立や生活リズム向上につながる活動を支援する。その中でも情報モラル教育の一環として、『あったかい絆宣言』を周知し、学校やスクールサミットなどを通して情報機器を適切に利用できるように取り組む。	
年度計画	スクールサミットを開催し、児童生徒ができる取組を考え、児童生徒が主体となって生活リズム向上につながる活動を実践していく。また、小中学校において情報モラルワークショップを行い、児童生徒や保護者に啓発していく。	内部評価
★ 実績成果	スクールサミットを開催し、「あったかい絆宣言」の海津市の現状や問題等を話し合う中で、各学校で取り組めることについて決めることができた。また、小学校1校、中学校1校において情報モラルワークショップを行い、情報機器のメリット、デメリットを考えることを通じて、使い方のルールを考える機会となった。	○

課題	学校でのクロームブック活用に伴い機器使用の低年齢化が進み、保護者に対して情報モラルの大切さを啓発していく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず
----	--	--

③組織的な活動の充実

取組目標	地域のスクールボランティアやこども110番などによる見守り活動や広報啓発などを行い、環境浄化活動の充実を図る。また、家庭・学校・地域社会・警察・各種団体との連携を図り、協力体制を強化していく。さらに安全・安心な地域ネットワークを築き、地域の見守り力を高めていく。	
年度計画	青少年育成推進委員会との連携や学校警察連絡協議会を通して、状況把握や環境改善を図る。	内部評価
実績成果	青少年育成推進委員会、学校警察連絡協議会を開催し、青少年育成推進員との連携や学校警察連絡協議会を通して、様々な立場の団体を交えた意見交流を行い状況把握と環境改善について議論することができた。	○
課題	継続して意見交換の場を設け、青少年健全育成に関わる関係諸機関が、共通理解のもと連携を図れるようにしていく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

④青少年教育の充実と地域社会の教育力の向上

取組目標	青少年の主体性や社会性を育むために、新成人が自ら企画する「二十歳の集い」を開催する。また、異年齢交流の場となっている子ども会活動においても、自主的に活動ができるように家庭・学校・地域の連携を図る。	
年度計画	二十歳の集い実行委員会を中心に会を企画し、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、新成人の運営で「二十歳の集い」を開催する。また、子ども会活動において、ジュニアリーダーを中心に子どもが楽しみながら主体的に活動できるように努める。	内部評価
実績成果	令和4年度より成人年齢が18歳に引き下げられたことから、「二十歳の集い」として、20歳の方を対象として11月の第1日曜日に実施することを決定し11月6日に開催した。 新型コロナウイルス感染症対策として、事前に対象者の出欠の確認や、出席者、来賓、従事者に抗原検査キットを配布した。 参加者：254人（対象者327人）	○
課題	「二十歳の集い」の開催時期を11月にしたことがまだ定着していないため、早期の周知を実施していく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



二十歳の集い



スクールサミット

施策の総合点検評価

担当課	社会教育課
-----	-------

基本目標	4 青少年の健全育成・地域交流の推進	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	13 家庭と地域の教育力向上の推進		
施策方針	「あたりまえのことができる家庭教育支援」をテーマに基本的な生活習慣を整え、思いやりの心を大切にする家庭づくりを目指します。また、子どもが健やかに育ち、生きる力を身につけ育む場の基盤づくりのために、家庭と地域の教育力を高める支援を充実します。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分	評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S 予定以上に進んでいる	A	家庭教育支援については、在宅での取組や、動画視聴の講座の開設などを行うことで、コロナ禍の中でも、親子の絆を深めることができた。子どもが健やかに育つことができるよう今後も支援を継続していく。
A 予定どおり進んでいる		
B 少し遅れている		
C 大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R4)	目標値 (R4)
単位子ども会 会員数	4,346人	297人	15000人
地域のおじさん・おばさん運動 登録者数	306人	306人	350人

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和4年度の重点的な取り組み)

①「あたりまえ」のことができる家庭教育支援の推進

取組目標	基本的な生活習慣を整え、思いやりの心を大切にする家庭を営む支援をする。また、市民活動団体の協力を得て、公民館事業、地域活動など親子が一緒に参加できる場を提供し、家族が触れ合い、円滑な親子関係の構築と思いやりのある家庭づくりに取り組む。	内部評価
年度計画	子育て応援隊講座を通じて、親と子がコミュニケーションをとりながら学べる機会を提供する。	
実績成果	様々な分野での子育て応援隊講座を開催し、親子のコミュニケーションを図ることができた。また講座で学んだことを、家庭でも実践することができた。	
課題	子どもや子育て世代の人が参加しやすい環境を整える工夫が必要である。また、講座の参加者はリピーターが多いため、新規の受講者を増やしていくための周知の方法を検討する必要がある。	



ペットボトルを飛ばそう会(子育て応援隊)

海津市にこにこ子育て支援事業「子育て・親育ち」

子どもが「スラスラ」育つ魔法のコミュニケーション

「おじゃ〜」と子どもが産まれ、振り回ってみるとあっという間に過ぎた子育てを振り返りながら思いますが、幸せも運んでくれる子育てですが、「子どもが泣いたらどこか悪いところがあるんじゃないか。」(不安の連続)。「周りはあれをした方がいい、これをした方がいいというけど、そんな余裕はない。」(日々のストレス)。少し大きくなると「あれをしておけば良かったな。」(後悔)などなど。

子育て中のママさん/パパさんは、365日24時間、子どもへの愛情アンテナは立てっぱなしです。本日はどうぞ少し肩の力を抜いて、保護者の皆さんが持つ「子育て力」を確認して頂ければと思います。

子育て・親育ち講座

②子育て学習の提供と家庭教育相談体制の充実

取組目標	多くの親が集まる機会を活かし、子育てや教育に対する家庭の役割、親としての力を高める講座の開催などを行う。また、様々な状況にある保護者のために学習機会を提供し、専門諸機関と連携した相談体制を充実させ、子育て不安の軽減を図る。	
★年度計画	家庭教育支援員をOCT文化センター内に配置し、「にこにこ子育て相談室」を設けて子育てについての相談業務の強化を図る。また、次年度小学校に入学する保護者を対象に就学時健診など集まる機会を利用して「子育て親育ち講座」を開催する。	内部評価
実績成果	「にこにこ子育て相談室」においては、来所相談（86件）、電話・メール相談（189件）、アウトリーチによる相談（33回）があった。 「子育て親育ち講座」はオンデマンド研修を3校、対面方式の講座を7校で実施した。	◎
課題	関係機関との連携の取り方や子育て世代に対する相談体制の周知を行う必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

③地域と連携した活動の充実

取組目標	子どもが安心して暮らせる環境づくり、地域の活性化と教育力向上のために、学校・家庭と地域との連携をより一層深め、子どもたちの活動や学習支援などに地域住民が関わりをもてるように取り組む。	
年度計画	各小学校区の地区社会福祉協議会にて実施されている三世代交流事業の活動支援を行う。	内部評価
実績成果	三世代交流は、新型コロナウイルス感染症の影響があったが、3地区において実施できた。にこにこ応援隊講座については、学習支援教室やこどもほっとハウスにおいても新型コロナウイルス感染症の影響を受けた講座があったが、情報交流をしながら活動を支援することができた。	○
課題	前例のやり方にとらわれずに、アフターコロナに合った活動を実施できるよう、各関係団体に助言等を行っていく必要がある。 海津市子ども会育成連絡協議会については、各地区の子ども会の状況を把握し、現状を踏まえた協議会組織のあり方について、見直す必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



にこにこ子育て通信

施策の総合点検評価

担当課	社会教育課
-----	-------

基本目標	4 青少年の健全育成・地域交流の推進	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	14 地域間交流・多文化共生の推進		
施策方針	市民が幅広い視野をもてるように、歴史的つながりのある姉妹都市及び友好都市と交流を深め、国際感覚豊かな人材育成のために異文化理解の教育に取り組めます。	評価 段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分	評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S 予定以上に進んでいる	A	新型コロナウイルス感染症の影響により訪問・受入研修の実施は見送ったが、オンラインで交流を実施した。姉妹都市の霧島市とは青少年を含めた市民レベルでの交流を行った。友好都市の酒田市とは、小学生の交流を通して文化や歴史を学び、相互の理解を深めることができた。今後においても、交流活動への参加の機会を提供し、幅広い視野をもつ人材の育成をしていく。
A 予定どおり進んでいる		
B 少し遅れている		
C 大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時(H27)	実績値(R4)	目標値(R4)
霧島市生徒交流事業参加率(応募者数/定員)	100%	100%	100%
酒田市児童交流事業参加率(応募者数/定員)	92.0%	100.0%	100%

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和4年度の重点的な取り組み)

①交流教育の充実

取組目標	国内における姉妹都市・友好都市との地域間交流について、市民の関心と参加を高める情報発信に努め、交流活動を通じて、相互の文化や歴史・習慣などを学び、両市の友好親善を推進する。さらに交流事業に参加しやすいような環境を整備し、幅広い視野をもつ人材育成に努める。	
★年度計画	リモート交流を通して、互いの歴史・文化に対する理解を深められるようにし、互いに親睦を深め、楽しみながら学び合う交流ができるように努める。	内部評価
★実績成果	霧島市交流・酒田市交流ともオンラインによる開催となったが、海津市の参加生徒による事前研修を実施し、参加者が一堂に顔合わせをし、相互の理解を深めることができた。 霧島市との生徒交流事業では、本市の生徒たちが霧島市の生徒とSNSなどで個々に交流できる大変貴重な機会となり、同年代の友人としての繋がりを持つことができた。 酒田市交流では、お互いの地域の特徴について紹介し、気候や特産物など互いの良さを伝えあうことができた。	○
課題	ホームステイ嫌厭により参加者が集まらないこともあり、両市で検討し、施設への宿泊研修という形で実施していく。 酒田市交流については、今後廃止も視野に入れ検討していく。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

②多文化共生の推進

取組目標	多文化共生の地域づくりを推し進める必要性が増しているなか、様々な国の異なる文化や価値観の理解を深め、豊かな国際性を習得する教育に取り組む。	
年度計画	英会話や外国料理の体験講座を開催し、異国の文化や習慣を学び、多文化への理解を深められるようにする。	内部評価
実績成果	コロナ禍の影響から講師の確保ができず、英会話や異国食料づくりについては中止とした。市内団体が外国人向け日本語教室を開催しており施設の貸出を行った。	○
課題	アフターコロナにおいて、安全に体験活動を行えるような企画立案していく必要がある。また市内外国人に日本文化の紹介について検討する必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

# 基本目標5

## 文化の振興 (社会教育課)

施策の総合点検評価

担当課

社会教育課

基本目標	5 文化の振興	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	15 文化の継承と発展		
施策方針	先人が残した貴重な文化遺産を後世に引き継ぐために、保存及び保護、調査研究を推進し、文化財の歴史的価値を高めるとともに、郷土の文化資源として活用することにより、地域の活性化を図ります。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、伝統行事の中止又は縮小して開催された。令和5年度は、通常開催する方向で検討されるため適切な補助金交付に努める。 早川家住宅については、令和7年・8年度で保存活用計画を策定し、耐震工事、建造物の改修を順次進めていく。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R4)	目標値 (R4)
文化財保存管理件数	8件(100%)	9件(100%)	9件(100%)

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和4年度の重点的な取り組み)

①指定文化財の保存・保護活用、後継者の育成

取組目標	所有者や管理者と協力して、その種別に応じた適切な保護管理体制を確立し、文化財の整備及び活用計画の作成を進める。また、後継者育成への支援をするなど、文化財の周知に努め、保存・保護を図る。	
★年度計画	国重要文化財「早川家住宅」における保存管理及び活用方法を検討し、活用計画の作成を進めていく。	内部評価
★実績成果	早川家住宅について、保存活用計画に係る関係者（所有者、保存会等）に対してのヒアリング及び令和2・3年度に実施した早川家住宅保存活用検討委員会における意見の整理等実施し、保存活用計画の策定に向けた課題の洗い出しを実施した。	○
課題	早川家住宅の価値の維持・向上を目的に保存活用計画を令和8年度までに策定し、長期的な修理計画等を立てる必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

②文化財や伝統芸能の資料収集及び調査研究

取組目標	歴史資料などの収集、遺跡の調査・研究を行うとともに、新たな文化財の掘り起こしに努める。また郷土資料を市民への学習教材などに活用していくための基礎的情報を蓄積していく。	
★年度計画	ハリヨの個体数調査や埋蔵文化財の試掘・確認調査を引き続き実施し、基礎的情報の収集に努める。	内部評価
★実績成果	岐阜県立大垣東高等学校との共同研究によるハリヨ個体数調査を継続して実施し、ハリヨの生息状況を把握することができた。また昨年整備した池においてもハリヨの生息が確認できた。	○

課題	南濃地区の小学校に出前講座の依頼を受け毎年実施しており、今後はさらに海津、平田地区の小学校にも働きかけ、ハリヨ保護の普及啓発をしていく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず
----	---	--

### ③文化資源の活用

取組目標	地域資源である文化財の価値を高めることは、地域住民がふるさとに誇りをもつことにつながるため、積極的に情報公開や活用を進める。また、文化財を活用することで、観光や文化振興など地域の活性化を図る。	
年度計画	市民の身近な歴史文化を紹介する企画展や出前講座を実施し、文化財資源の活用と地域の活性化に努める。	内部評価
実績成果	歴史民俗資料館において、戦争と平和展や海津市ゆかりの刀剣展の開催及び海津市の歴史に関わるミニ講座を実施して、市の歴史への興味・関心を高めることができた。	○
課題	出前講座や企画展を通して歴史資源を積極的に活用するとともに、SNSやオンラインなどを利用してより広範囲への情報提供を行う必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

### ④文化財指定基準の運用

取組目標	海津市文化財保護条例に基づき、保存及び活用のための必要な措置を講じる。また、文化財指定基準に基づき、歴史的・文化的価値のある文化財を掘り起こすなど基準の運用を図る。	
年度計画	海津市文化財保護条例に基づき、文化財所有者・管理者に対する文化財保護事業補助金等の支援を実施する。また、文化財指定基準に基づき、歴史的・文化的価値のある文化財を保護審議会に諮問していく。	内部評価
実績成果	文化財保護事業補助金を交付し、文化財所有者や管理団体等の支援を実施した。（今尾左義長は規模を縮小して実施、高田の甘酒まつりは中止）	○
課題	後継者不足などの理由から伝統行事の継続が難しいとの意見がある。他市町村の状況を踏まえ調査研究していく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



早川家住宅(国重要文化財)



今尾左義長

施策の総合点検評価

担当課	社会教育課
-----	-------

基本目標	5 文化の振興	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	16 豊かな自然と文化財を愛する心の育成		
施策方針	郷土の歴史や文化財に、誇りと親しみをもつことのできる普及・啓発活動を推進するとともに、市民が地域の文化遺産を知り、守り、伝えることによって、文化財愛護に対する意識高揚を図ります。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分	評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S 予定以上に進んでいる	A	団体開催の事業では新型コロナウイルス感染症の影響があり規模縮小で開催されたが、資料館の企画展等では影響なく開催できた。 歴史民俗資料館常設展示リニューアル計画については、検討委員会を開催して展示更新の内容や手法の検討を行い、設計業者と今後さらに具体的な検討を重ね、令和7年度リニューアルオープンを目指す。
A 予定どおり進んでいる		
B 少し遅れている		
C 大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R4)	目標値 (R4)
歴史民俗資料館 1日あたりの平均入館者数	37.4人	27.4人	30人

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和4年度の重点的な取り組み)

①文化財の情報発信と周知

取組目標	文化財マップなど郷土の文化を紹介・案内する資料を充実し、史跡巡りや学習会などを行って、郷土文化を知る機会の拡大を図る。また、文化財などを案内するボランティアガイド「ふる里おもてなし隊」との連携強化を図り、観光にもつなげる。	内部評価
年度計画	新たに指定された文化財の追加など、文化財マップの見直しを検討していく。また、ボランティアガイド「ふる里おもてなし隊」に文化財情報を提供し、連携を図っていく。	
実績成果	文化財マップについては、令和5年度に改訂できるよう予算計上をした。ふるさとおもてなし隊については、資料館と連携し市内文化財の研修を行った。	
課題	文化財マップのレイアウト等も見直し、関係資料の収集等を進めていく必要がある。	



歴史民俗資料館



堀田の田植え(歴史民俗資料館)

②自然・歴史資源の発見と活用

取組目標	郷土の文化に触れ、自然景観を見て歩き、歴史を学ぶことができる機会を提供する。また、多様な分野における有識者の活用やメディアへの情報発信によるPRなどに努める。	
年度計画	歴史講座や体験プログラムなどを通じて、歴史文化資源の活用を図る。また、ホームページや広報メディアへの効率的な情報発信により広域でのPRに努める。	内部評価
実績成果	企画展では「戦国武将が愛した海津市ゆかりの刀剣展」を開催し、広く関心を集めることができた。特に期間中の「武将なりきり体験」が好評であった。	○
課題	来館者の増加を図るため、常設展示リニューアルを行い展示内容を充実させ、SNSなどの媒体を活用し施設の魅力発信などPRを行う必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

③歴史民俗資料館運営の充実

取組目標	入館者が減少傾向にあることを踏まえ、より一層の調査・研究を進めながら企画展などの事業を展開していく。また、館内リニューアルを検討しながら入館者の増加を目指す。	
年度計画	魅力ある歴史民俗講座や利用者の共感を得られる企画展示を実施してリピーターの確保や新たな入館者の増加に努める。また、歴史民俗資料館の施設の充実を図るため、リニューアル検討委員会の助言に基づきリニューアル計画を進め、施設改修の具体的実施設計を作成していく。	内部評価
★ 実績成果	社会見学来館校85校、企画展4回開催（合計入館者数 2,263名） 企画展「戦国武将に愛された海津市ゆかりの刀剣展」には市内だけでなく、遠方からの来館者や問い合わせもあり関心を集めることができた。また期間中実施した武将なりきり体験（4日間）に70名の参加があった。 リニューアル計画については実施設計書を作成し、着工に向けた準備が整った。	○
課題	来館者の興味関心を引く企画展や講座を開催して入館者の増加につなげる。リニューアル工事を計画に沿って円滑に進める。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



企画展「戦争と平和～沖縄本土復帰50年～」  
(歴史民俗資料館)



武将なりきり体験(歴史民俗資料館)

施策の総合点検評価

担当課

社会教育課

基本目標	5 文化の振興	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	17 生きがいと共生、文化芸術活動の推進		
施策方針	地域の人々が、郷土の文化を愛し、生きがいを感じられるような文化活動や創作活動を支援します。また、質の高い芸術に触れる機会を提供することで豊かな心を育むとともに、市民参加型による芸術創作活動に取り組める環境づくりをします。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	文化展について、新型コロナウイルス感染症の影響で出品数が減ったが開催期間を延長することで対応した。今後は出品数の回復を目指し募集要項等を見直す。 また合唱団活動については、練習を再開することができ発表会を開催することができた。活動の周知について保護者などの団員関係にも周知の協力をしてもらえるよう進める。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時(H27)	実績値(R4)	目標値(R4)
市内の文化団体登録者数	1,557人	936人	1,700人

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和4年度の重点的な取り組み)

①市民文化活動への支援

取組目標	文化団体が行う活動は、これに参加する人たちが生きがいを見だし、自己表現のできる機会をつくるとともに、文化レベルの向上につないでいくことができる。このため、成果発表をする活躍の場を提供し、活動しやすい環境づくりに努める。	
年度計画	コロナ禍で実施したWEB展の結果を踏まえ、文化展の運営方法を検討し、市民が参加しやすい文化展を開催していく。また、文化協会をはじめとする文化団体の活動に対して補助金等の支援を実施する。	内部評価
実績成果	文化展は、通常での展示形式に戻し、来場者が分散されるように開催期間を例年より長くして開催した。出展数：267作品 来場者数：1,142人 また、補助金等の支援をしている文化協会においては、成果発表の場としている市民文化祭を通常とまではいかないが、例年のように開催し、日頃の成果を発表することができた。	○
課題	文化展については、通常の展示形式に戻したが、新型コロナウイルス感染症の影響で創作活動を休止した団体が多く出品数が著しく減少したため、募集要項等を見直し回復を目指す。 今後、文化協会主催の市民文化祭との合同開催も視野に入れ検討していきたい。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

②文化や芸術に親しむ機会の提供

取組目標	情緒豊かな心を育み感性を高めるため、幼少期から優れた文化芸術に触れ合う機会を提供する。	
年度計画	文化庁が実施する「文化芸術による子供育成総合事業(巡回公演事業)」を市内小中学校に周知し、幼少期から優れた芸術文化に触れ合う機会の提供を行う。	内部評価
実績成果	文化庁が実施する巡回公演事業の案内を小・中学校に毎年続ける中で、学校の先生方にも少しずつ浸透し応募数が増えている。実施した学校からは質の高い芸術文化を肌で感じることができることから好評である。	○

課題	学校の実情等あるが、応募校に偏りがあるため、積極的に活用してもらえよう校長会など通して呼び掛けていく。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず
----	---	--

### ③市民参加型による芸術創作活動の奨励

取組目標	多くの市民がともに創ることの喜びや生きがいを感じられるように、主体的に企画・創作する文化芸術活動を奨励し、推進に努める。	
★ 年度計画	令和6年度に岐阜県で開催される「国民文化祭」に向けて、実行委員会を設立する。また、主体的に企画・創作する文化芸術活動についてホームページやメディアなどの媒体を活用し、芸術創作活動のPRに努める。	内部評価
★ 実績成果	新型コロナウイルス感染症に関する状況を考慮し、観客席に制限を設け、ながら児童合唱団とかいづっち合唱団のジョイントコンサートを開催した。芸術文化に触れる機会を創り出し、芸術文化への関心を持ってもらう環境をつくりを進めることができた。国民文化祭については、県実行委員会と連携し市実行委員会設立の準備を行うことができた。	○
課題	合唱団の練習の仕方を工夫し、子どもたちが少しでもコロナ感染の不安を払拭できる環境を検討し、市民参加を呼びかけていく。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

### ④多様な文化芸術活動の支援

取組目標	文化芸術活動の活性化と人材育成を図るため、音楽や演劇をはじめとする様々な文化芸術活動を積極的に支援する。	
★ 年度計画	創設6年目を迎えるかいづっち合唱団の活動を多くの市民に知ってもらえるようにPRを行い、団員を増やすとともに、子どもたちが音楽に親しめる環境づくりを継続していく。	内部評価
★ 実績成果	新型コロナウイルス感染症の影響もあり、マスクを着用しての練習を継続した。徐々にではあるが、通常の練習に戻し、団員相互の交流も含め楽しく活動を実施した。	○
課題	中学校での部活動または地域クラブとの掛け持ちが難しく中学生になると退団していく傾向にあるため、継続して参加してもらえるよう保護者と意見交換をしていく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



かいづっち合唱団



文化展

## 基本目標6

# スポーツ活動の振興 (スポーツ課)

施策の総合点検評価

担当課

スポーツ課

基本目標	6 スポーツ活動の振興	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	18 スポーツ活動の充実		
施策方針	市民が健康で活力のある生活が送れるように、各々のライフスタイルやライフステージに応じた、参加できるスポーツ活動の機会を提供します。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、計画した事業の一部が実施できなかった。アフターコロナへの転換期を迎え、関係団体と連携を図り、また市報やSNS等を活用し、スポーツ活動の機会の提供を進めていく。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R4)	目標値 (R4)
体育大会 参加者数	1,143人	0人	1,500人

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和4年度の重点的な取り組み)

①子どものスポーツ活動の推進

取組目標	子どもの健全育成のため、スポーツ少年団や学校部活動などスポーツの活動の場となる団体等の活動を支援する。	
★年度計画	体育協会とスポーツ少年団・学校部活動・中学校クラブ(中学校地域クラブ)の連携を図り、子どものスポーツ活動の場となる団体等の活動の支援をする。	内部評価
★実績成果	土日等休日に生徒が地域でスポーツ活動ができるよう体育協会及びスポーツ少年団、学校、総合型地域スポーツクラブと連携し、子どものスポーツ活動の場となる団体の活動を支援した。	○
課題	少子化や子どもたちのニーズの多様化により、スポーツ少年団及び土日等休日の地域スポーツ活動に参加する子どもが減少している。会員の減少により各団体の運営が厳しくなるため、引き続き活動を支援することが必要となる。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

②高齢者や障がい者スポーツ活動の推進

取組目標	室内でも気軽にできるスポーツ教室を開催し、高齢者や障がい者が楽しくスポーツに親しむ機会を提供するよう努める。	
★年度計画	だれもが気軽に参加できる軽スポーツ教室の開催に努める。また、出前講座を通じて、様々な人が軽スポーツを体験できる機会をつくる。	内部評価
★実績成果	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、昨年に引き続き各種団体・サークルに対する出前講座の実施はなかったが、スポーツ推進委員(19人)を中心に、軽スポーツ教室を開催し、健康維持を呼びかけることができた。	○

課題	軽スポーツ教室は、幅広い世代の市民を対象としているが、参加者が固定化しており、今後、教室開催の周知方法等について検討する必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず
----	--	--

### ③市民参加型スポーツ活動の推進

取組目標	体育協会、スポーツ推進委員と連携して、各種スポーツ大会を開催するなど、地域を核としたスポーツ大会の内容の充実を図り、だれもが気軽に楽しめる市民参加型のスポーツ行事を開催する。	
★ 年度計画	新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、体育協会・スポーツ推進委員・各地区体育推進員と連携し、地域を核とした市民参加型のスポーツ行事を開催する。	内部評価
実績成果	各種スポーツ大会（地区運動会、タスポニー大会など）の実施に向けて準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。	△
課題	各地区運動会では、参加者が高齢化等により減少しており、事業の見直しを図る必要がある。市民のスポーツに対する関心を高め、参加を促すには各種スポーツ大会等の情報提供が必要である。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

### ④スポーツ観戦機会の創出

取組目標	「みる」スポーツを通して、さらに市民のスポーツに対する意識高揚を図るため、ボート、カヌー及びトライアスロン競技など本市の特徴的なスポーツ環境を生かし、スポーツ観戦機会を創出し、競技への関心を高める。	
年度計画	トライアスロン大会などの長良川サービスセンターで開催される各種スポーツ大会への支援・PRを行うことで、競技への関心を高める。また、FC岐阜ホームタウンデーの事前周知を行い、スタジアムでの観戦機会を創出する。	内部評価
実績成果	長良川サービスセンターで開催される各種スポーツ大会（トライアスロン、レガッタなど）が開催され、大会支援及びPRを行った。また、FC岐阜ホームタウンデーについては、無料観戦チケットの情報を市民に周知し、スタジアムでの観戦機会を創出することができた。	○
課題	より多くの市民に対して、スポーツ観戦機会を創出できるよう、SNS等を活用して情報提供を行う必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



平田野球クラブ(土日等休日の部活動地域移行)



第27回木曾三川交流レガッタ

施策の総合点検評価

担当課

スポーツ課

基本目標	6 スポーツ活動の振興	外部 検証 評価	継続・妥当
施策	19 スポーツ施設・備品の充実		
施策方針	市民が気軽に安全かつ快適にスポーツ活動ができるように、施設の充実を図ります。また、スポーツ備品の充実を図り、貸出しにより市民や団体のスポーツ活動への参加を支援します。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分	評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S 予定以上に進んでいる	A	市民が身近な場所で、スポーツを楽しめるよう、施設の老朽化による修繕や環境改善を行った。今後、施設の充実を図るため、スポーツ施設の適正な配置計画を策定する。
A 予定どおり進んでいる		
B 少し遅れている		
C 大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R4)	目標値 (R4)
スポーツ推進委員の活動回数	37回/年	116回/年	100回/年

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和4年度の重点的な取り組み)

①体育施設の充実

取組目標	社会体育施設の計画的な統廃合を進め、利用者が安全で快適にスポーツを楽しめるように環境づくりを進めるとともに施設の長寿命化とグラウンド・ゴルフ場の拡充を目指す。また、市民が身近な場所でスポーツを楽しめるよう、教育施設のスポーツ開放を継続的に進める。	
★年度計画	ライフスタイルの多様化によるレクリエーション需要の低下や社会環境の変化による体育施設の集約化に伴う事業を進める。また、スポーツ施設の運営管理と施設維持のための改修・修繕工事などを施し、安全で安心な環境づくりを図る。	内部評価
実績成果	体育施設の照明器具取替、南濃グラウンド・ゴルフ場日除けの設置及び浄化槽プロア交換など、延べ23件の修繕等を行い、市民が利用しやすいスポーツ環境の整備を行った。	○
課題	市民スポーツ活動の場として、平田体育館の耐震化や各施設の適切な維持管理を行う必要がある。また、更なる施設の充実を図るため、スポーツ施設の適正な配置について検討する必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

②スポーツ備品の充実

取組目標	市民や団体のスポーツ活動を支援するため、スポーツ備品の充実を図り、出前講座などを通じてスポーツ備品である貸出品を利用した軽スポーツ教室を開催する。	
年度計画	スポーツ活動の支援をするため、スポーツ備品の充実を図る。また貸出品を利用した出前講座・軽スポーツ教室を開催する。	内部評価
実績成果	グラウンド・ゴルフ用品やポッチャなど、17件のスポーツ備品の貸出を行った。また、軽スポーツ教室を開催し、延べ2,019人が参加した。	○
課題	スポーツ備品を充実させて、市民が気軽に軽スポーツ教室へ参加できるよう、更なる周知をする必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

施策の総合点検評価

担当課

スポーツ課

基本目標	6 スポーツ活動の振興	外部 検証 評価	拡充・推進
施策	20 スポーツ指導者・団体の育成		
施策方針	体育協会などの既存のスポーツ団体及び総合型地域スポーツクラブの活動を支援します。また、スポーツ指導者研修の充実を図ります。	評価段階	拡充・推進 継続・妥当 見直し・改善 縮小・休止 廃止検討

1. 施策の進捗状況の評価と理由および方向性

進捗評価区分		評価	進捗評価理由および今後の方向性など
S	予定以上に進んでいる	A	土日等休日に生徒が地域でスポーツ活動ができるよう総合型地域スポーツクラブを運営主体とした団体を設立し、子どもたちのスポーツ環境を整備した。また、体育協会に指導者バンクを設置し、指導者の育成・研修を行った。
A	予定どおり進んでいる		
B	少し遅れている		
C	大幅に遅れている		

2. 参考とする指標(第2次 海津市総合計画より)

成果指標	策定時 (H27)	実績値 (R4)	目標値 (R4)
—	—	—	—

3. 基本施策に関する評価シート(★は令和4年度の重点的な取り組み)

①スポーツ団体の育成

取組目標	体育協会などのスポーツ団体及び総合型地域スポーツクラブの活動を継続して支援しつつ、競技団体などの統廃合・法人化を検討し、持続可能な組織への転換を支援する。	内部評価
年度計画	各団体の活動を継続して支援しつつ、スポーツ団体間の連携を促し、それぞれの活動の活性化や、運営の効率化などを進める。	
実績成果	総合型地域スポーツクラブに対して、県地域スポーツ課及び県スポーツ協会と連携し、クラブ訪問により安定的で持続可能なクラブ運営について協議を行った。 また、体育協会に指導者バンクを設置し、地域の指導者がバンクに登録し、各種団体へ指導者を紹介する体制を構築することができた。	
課題	体育協会の法人化については、事務の担い手不足により、法人化が進んでいない。 また、総合型地域スポーツクラブにおいては、スタッフの高齢化が問題となっており、持続可能なクラブ運営が課題である。	



スマイルクラブこん平田(総合型地域スポーツクラブ) (一社)南濃スポーツクラブ(総合型地域スポーツクラブ)

②指導者の育成と確保及び活用

取組目標	スポーツ指導者に対する研修を充実し資質の向上を図り、市民ニーズに合った指導が行われるように指導者間の情報交換や情報共有を進める。また、教職員の働き方改革の推進に伴い部活動のクラブ化を関係機関と連携し検討する。	
★年度計画	スポーツ指導者の研修の情報提供・情報共有を図り、指導者の育成と資質向上に努める。また、総合型地域スポーツクラブを主体とした中学校地域クラブを立ち上げ、部活動のクラブ化の推進を図る。	内部評価
実績成果	総合型地域スポーツクラブを運営主体とした海津市中学校地域クラブを設立し、令和4年8月から土日等休日の部活動を地域に移行した。また、スポーツ指導者に対しては、研修会を実施し、資質の向上に努めた。	◎
課題	体育協会の指導者バンク登録者について、種目によっては指導者が不足しているため、今後、各競技団体と指導者の発掘・育成について協議が必要である。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず

③競技スポーツ活動の支援

取組目標	本市出身の世界で活躍が期待される五輪選手や五輪候補選手を支援する。特に東京2020オリンピック・パラリンピックを重点的に応援する。	
★年度計画	選手後援会などの応援組織と連携し、本市出身の世界で活躍が期待される五輪選手や五輪候補選手を支援する。また、全国大会に出場する市民および市内競技団体を支援する。	内部評価
実績成果	全国大会に出場する市民および市内競技団体に対して、大会出場にかかる経費を補助し、今後、活躍が期待される選手を支援した。 また、全国大会出場の懸垂幕を庁舎に掲出するなど、選手の活躍を市民にPRすることができた。	○
課題	パリオリンピック・パラリンピックに向けて、本市出身の安藤友香選手の後援会と連携しながら、引き続き支援していく必要がある。	◎ 十分達成 ○ おおむね達成 △ やや不十分 × 達成できず



指導者バンク登録者向け研修会

# IV 教育委員会の施策 外部評価

# (1)外部評価一覧表

第2次海津市教育振興基本計画 「基本目標」	
【基本目標の施策】	担当課
基本施策	外部評価
<b>「基本目標1」 子ども・子育て支援の充実</b>	
<b>【施策1】 就学前教育・保育の総合的な提供</b>	こども未来課
① 認定こども園における幼児教育の推進	拡充・推進
② 小学校との連携	
③ 配慮が必要な子どもへの支援	
④ 就学前教育・保育施設の整備	
⑤ 保育教諭の資質向上	
<b>【施策2】 子育て家庭への支援の充実</b>	こども未来課
① 多様な子育て支援サービスの充実	継続・妥当
② 相談体制の充実	
③ 情報提供の充実	
<b>「基本目標2」 学校教育の充実</b>	
<b>【施策3】 生きる力を育む教育の推進</b>	学校教育課
① 「軸」を明確にした学校経営の推進	継続・妥当
② 確かな学力を身につけることで「生きる力」を育む指導の充実	
③ 基礎的な知識・技能を着実に身につける指導や取組の充実	
④ 思考力・判断力・表現力などを育成する指導や取組の充実	
⑤ 学びに向かう力を高める取組の充実	
⑥ 多様なニーズを要する子どもに対応した教育機会の充実	
⑦ 外国語活動の充実	
⑧ キャリア教育の推進	
⑨ 郷土学習の推進	
<b>【施策4】 教育環境の整備・充実</b>	教育総務課・学校教育課
① 学校施設の老朽化対策及び長寿命化対策の推進	継続・妥当
② 教育環境における情報機器設備の充実	
③ 安全な通学路の確保	
<b>【施策5】 豊かな心の育成</b>	学校教育課
① 道徳教育の充実	継続・妥当
② 多様な体験活動の推進	
③ 人権同和教育の推進	
<b>【施策6】 教職員の資質の向上</b>	学校教育課
① 「海津市教育のスタンダード」の活用	継続・妥当
② 教職員研修の充実	
③ 特別支援教育に関わる教職員の研修	
④ 研究授業や公開授業、交流授業などの促進	
⑤ 子どもと向き合う時間の確保	
<b>【施策7】 学校給食の充実及び食育の推進</b>	教育総務課(給食センター)
① 地域全体で取り組む食育の推進	拡充・推進
② 学校給食の充実	
③ 学校給食の衛生管理と事故防止の徹底	
④ 学校給食センターの効率的な運用・整備	
⑤ 学校における事務負担の軽減	
⑥ 給食の提供における緊急対応	
<b>【施策8】 児童・生徒の減少に伴う課題の検討</b>	教育総務課
① 海津市小中学校の適正規模等に関する検討委員会の設置と協議	継続・妥当
<b>「基本目標3」 生涯学習環境の整備・充実</b>	
<b>【施策9】 継続的な学習・交流の場の形成</b>	社会教育課
① 生涯学習ニーズの把握	継続・妥当
② 学習情報の収集・整備	
③ 社会教育施設などの整備とネットワーク化	

第2次海津市教育振興基本計画 「基本目標」

【基本目標の施策】	担当課
基本施策	外部評価
「基本目標3」 生涯学習環境の整備・充実	
【施策10】 多様な学習機会の提供	社会教育課
① 生涯学習活動と指導者の育成	継続・妥当
② 生涯学習の意識啓発	
③ 図書館や歴史民俗資料館などの学習機関の機能充実	
【施策11】 新たな学習活動への支援	社会教育課
① 学習活動を支援する人材の活用	継続・妥当
② 高齢者のもつ技能の伝承	
③ 学習機会の充実	
「基本目標4」 青少年の健全育成・地域交流の推進	
【施策12】 地域で進める青少年の健全育成	社会教育課
① 「こども健全育成指針」の推進	継続・妥当
② 子どもの生活習慣の確立に向けた支援	
③ 組織的な活動の充実	
④ 青少年教育の充実と地域社会の教育力の向上	
【施策13】 家庭と地域の教育力向上の推進	社会教育課
① 「あたりまえ」のことができる家庭教育支援の推進	継続・妥当
② 子育て学習の提供と家庭教育相談体制の充実	
③ 地域と連携した活動の充実	
【施策14】 地域間交流・多文化共生の推進	社会教育課
① 交流教育の充実	継続・妥当
② 多文化共生の推進	
「基本目標5」 文化の振興	
【施策15】 文化の継承と発展	社会教育課
① 指定文化財の保存・保護活用、後継者の育成	継続・妥当
② 文化財や伝統芸能の資料収集及び調査研究	
③ 文化資源の活用	
④ 文化財指定基準の運用	
【施策16】 豊かな自然と文化財を愛する心の育成	社会教育課
① 文化財の情報発信と周知	継続・妥当
② 自然・歴史資源の発見と活用	
③ 歴史民俗資料館運営の充実	
【施策17】 生きがいと共生、文化芸術活動の推進	社会教育課
① 市民文化活動への支援	継続・妥当
② 文化や芸術に親しむ機会の提供	
③ 市民参加型による芸術創作活動の奨励	
④ 多様な文化芸術活動の支援	
「基本目標6」 スポーツ活動の振興	
【施策18】 スポーツ活動の充実	スポーツ課
① 子どものスポーツ活動の推進	継続・妥当
② 高齢者や障がい者スポーツ活動の推進	
③ 市民参加型スポーツ活動の推進	
④ スポーツ観戦機会の創出	
【施策19】 スポーツ施設・備品の充実	スポーツ課
① 体育施設の充実	継続・妥当
② スポーツ備品の充実	
【施策20】 スポーツ指導者・団体の育成	スポーツ課
① スポーツ団体の育成	拡充・推進
② 指導者の育成と確保及び活用	
③ 競技スポーツ活動の支援	

## (2) 外部評価（学識経験者による意見）

岐阜大学教授  
小林 一貴

### 海津市教育委員会点検評価について

「令和4年度教育委員会の事務に関する点検評価報告書」に基づき、基本目標における施策について意見を述べさせていただきます。

基本目標1・施策1については、計画通りに「今尾コスモスこども園」が開園され、幼小連携、教諭の資質向上等に向けた取り組みが進められています。施策2については、利用者のニーズが多様化する中、人材の育成や対応の柔軟化等の課題に取り組みつつ、多様な子育て支援サービスの充実に向けた取り組みがなされている点が評価できます。

基本目標2・施策3では、ICT活用による個別最適化された学び、キャリア教育、郷土学習の推進がなされ、コロナ禍後の意欲的な取り組みが期待されます。施策4では、施設関連の整備とその活用について安全面の確保に関わる関係者の検討が重要になります。施策5では、道徳の授業の充実、体験活動、「ひびきあい活動」等の確実な取り組みがなされています。施策6では、研修や講座を通して働き方改革の意識の浸透など成果を上げている点が評価できます。施策7では、生産者との積極的な交流が行われ、地域が一体となって食育推進と意識向上の取り組みが発展的に再開されつつあります。施策8では、学校統合に伴う委員会、部会での協議において事案の具体的な推進が重要になると考えます。

基本目標3・施策9では、生涯学習講座が多く開講され、施設面の課題はあるものの引き続き市民主導による学習・交流がなされることが期待されます。施策10では、電子図書の充実が図られ、学習機関の機能充実も積極的に行われ、図書館のデジタル化も利用者に浸透している点が評価できます。施策11では、市民カレッジ、キッズカレッジが実施され、世代をこえた地域文化の伝承と地域づくりのさらなる実現が期待されます。

基本目標4・施策12については、生徒・児童主体の活動とあわせて青少年健全育成に関わる諸機関の連携が図られつつあります。施策13では、支援員の配置による子育て相談業務の強化が進められ、成果を上げています。施策14では、交流教育が検討を重ねながら行われ、子供たちが広く世界と関わるという大切な機会が持たれています。

基本目標5・施策15では早川家住宅の活用計画の策定が進められ、文化財資源活用の課への対応がとられています。施策16では、企画展の開催が実質的な成果を上げてきています。施策17では、市民主体の文化芸術活動を通じた文化芸術体験が実現されています。

基本目標6・施策18では、子供のスポーツ活動の場となる団体の支援がなされ、市民参加型スポーツ活動の課題の検討が進んでいます。施策19については、市民に利用しやすいスポーツ環境の整備が図られています。施策20では、部活動の地域移行とスポーツ環境の整備に向けて、指導者の育成、支援体制の組織作りがなされている点が評価できます。

令和3年度は新型コロナウイルスの感染対策をとりつつ、推進されつつある施策と、やむを得ない事情から推進が滞っている施策がありましたが、令和4年度はこれまでの成果と課題をふまえた着実な取り組みが行われています。施策の推進において、組織面での連携、人と人の交流と連携を基盤とした取り組みの重要性が増してきていると考えます。

---

令和4年度 教育委員会の事務に関する点検評価報告書

令和5年11月発行

発行/海津市教育委員会

〒503-0695

岐阜県海津市海津町高須 515 番地

TEL 0584-53-1467 Fax 0584-53-1608

<https://www.city.kaizu.lg.jp/>